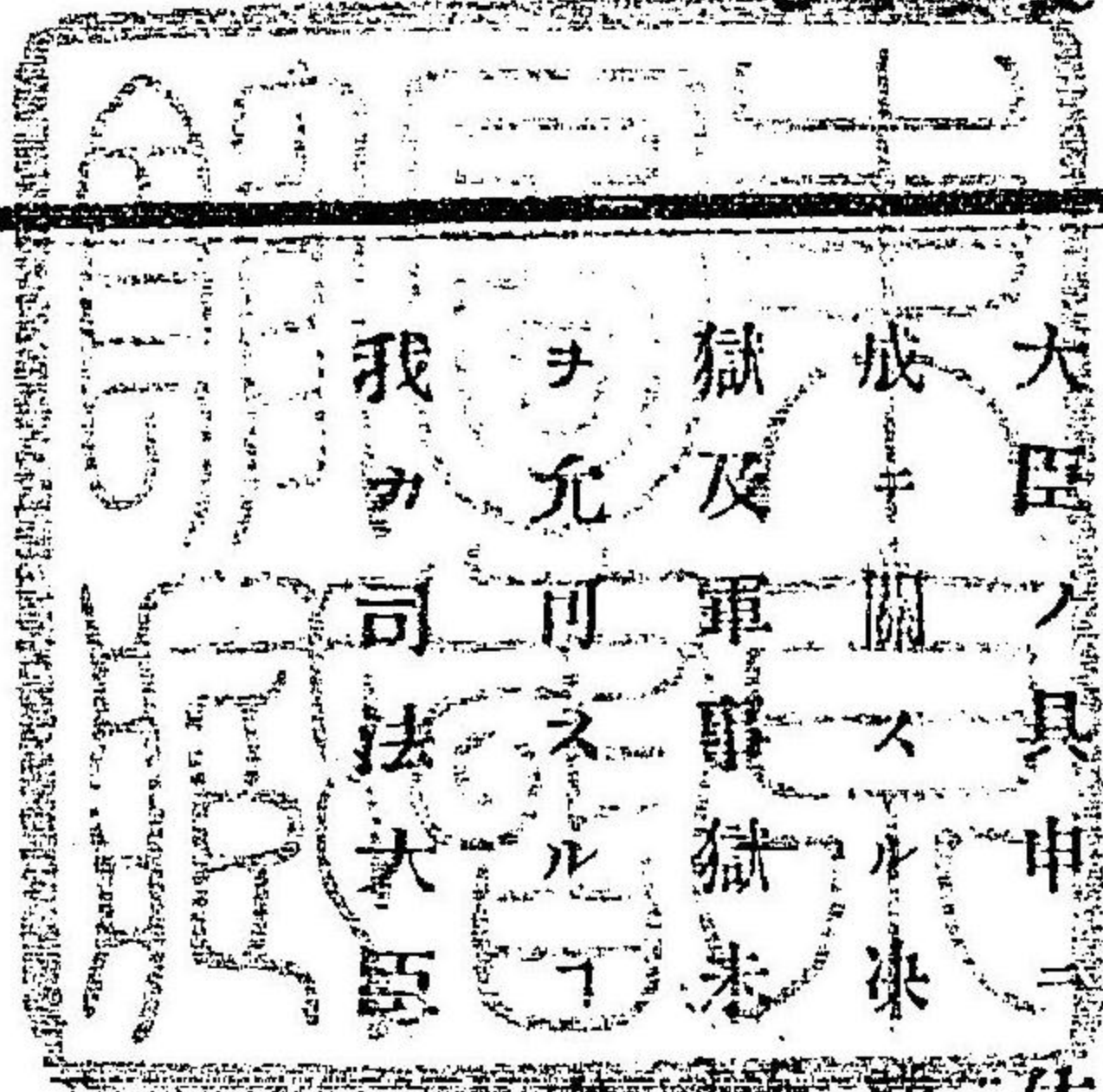


N^o 22 / XIV



○白耳儀未己決兩監獄則

現未兩世ニ在テ安全ノ白耳儀國王レヲボールハ我カ司法

大臣ノ具申ニ依リ一千八百三十一年十一月四日ノ監獄構

成ニ關スル決議書第五十三條及第七十四條ヲ參酌シ民事

獄及軍事獄未レ決兩監獄ニ關スル一般ノ規則ヲ施行スル

ヲ允可スルニ左ノ如シ

我カ司法大臣ハ該規則ノ執行ヲ任命セラル

レヲボール陛下 奉勅 司法大臣アルスノトゾ

第一編 司獄官吏

第一章 司獄官吏ノ組織

白耳儀未己決兩監獄則

第一條 民事軍事兩監獄ノ司獄官吏ハ各監ノ必用トスル所ニ依リテ典獄若クハ看守長(按スルニ副典獄一名、看守一名若クハ數名、監護人一名若クハ數名、宗教尼或ハ俗人ノ監護婦一名若クハ數名、醫師及教師一名若クハ數名ヲ以テ組織ス)

此他在監囚ノ員數ト及監獄ノ必用ニ依リテ左ノ小官吏ヲ附属セシム即チ簿記ヲ善スル吏一名若クハ數名、教師一名、使吏一名、特務官吏數名トス

第二條 各監獄ノ司獄官吏ノ人員ハ司法大臣之ヲ規定ス又大臣ハ監獄ノ模様ニ依リテハ宗教家ノ監護ヲ任命スルヲアルベシ但シ之ヲ任命スル時ハ其法則ヲ定ム

第二章 義務及職務

(イ)典獄若クハ看守長ノ義務及ヒ職務

第三條 典獄若クハ看守長ハ監獄行政委員會ノ監督ヲ受ケ監獄一般ノ庶務ヲ指揮ス

此他ノ諸官吏ハ悉ク典獄若クハ看守長ニ隸屬シテ之レカ命令ヲ遵奉スルヲ要ス

第四條 典獄若クハ看守長ハ左ノ諸般ノ事務ヲ執行スルノ任アリ

- 一 治罪法ニ載ル處ノ入監録、會計簿、其他ノ書類、通信簿等ヲ保存監督スルヲ但シ此諸務ニ關シテハ特務書記及使吏ヲ以テ典獄ヲ補助ス故ニ典獄ハ此諸官吏ニ已レノ命令及教令等ヲ執行セシム
- 二 供給者及請負人ノ契約ヲ監督スルヲ

- 三 至急ヲ要スル時ハ看守及監護ノ勤務方ヲ直ニ命令スルヲ
- 四 囚徒ノ居房ヲ指定シ或ハ特別ニ要スル處ノ諸房ヲ類別スルヲ
- 五 囚徒ノ通信及出入ヲ監督スルヲ
- 六 監獄一般ノ規則及特別規則並ニ取締法ヲ嚴重ニ執行スルヲ
- 第五條 監長タル者ハ上等官吏(按スルニ司法省州長若クハ州廳ノ屬官等ヨリ送達シタル教令書、命令書ハ配下ノ諸官吏ニ己レノ命令スル書類ト同一ノ簿冊ニ之ヲ記載スベシ)
- 第六條 監長タル者ハ日記録ヲ所持シ之レニ緊要ノ事故

- 及己レカ監督スル諸務上ヨリ生スル處ノ重要ノ事件ヲ記載スベシ
- 第七條 右ノ日記録ハ議會開會(按スルニ獄務ニ關スル事ヲ討議ス)時ニ當テ議會ニ提出スルヲ要ス此他司法省官上等官吏巡回ノ時モ亦之ヲ呈出スベシ
- 第八條 監長タル者ハ常ニ囚徒ノ衣服、寢具、監獄附屬ノ物品及其他ノ物ヲ記録スル處ノ簿冊ヲ所持スベシ
- 第九條 囚徒入監ノ時ニ携帯スル所ノ金錢寶玉ノ類及其他ノ物品等ヲ記載スル簿冊ヲ所持スベシ
- 此諸物品ハ豫メ清潔ニ掃除シテ之ヲ包ミ而後之ニ檢印ヲナシ之ヲ倉庫ニ貯藏スルヲ監察スベシ
- 第十條 典獄若クハ看守長ハ右ノ諸簿及其他己レニ委託

セラレタル報告書類ヲ監督保存スルノ責任アリ

第十一條 又監獄一般ノ安寧ニ責任アリ故ニ囚徒カ脱監
 ナ企圖スルヲ豫防スルカ爲メ毎日門戸ノ横木、錠、鍵、壁ノ
 内外ヲ検査シ其堅牢ナルヤ否ヲ巡察シ並ニ火災ヲ發生
 セサル様之ガ豫防法ヲ施スベシ

第十二條 又各門戸ハ定時ニ閉開シタルヤ及看守等カ晝
 夜間斷ナク其門戸ヲ監察スルヤ否ヲ監督スベシ

第十三條 樹木繁殖シ諸壁ノ周圍鉄格子等ニ横仆スルヤ
 否及諸器械、梯子等ヲ夜ニ至ルモ徹ルヤ否ヲ監督スベシ

第十四條 又囚徒ヲ入監ノ時ニ点檢スルト同ク常ニ斯ル
 場合ニ臨ミテハ數々点檢シテ危險ナル器械等ヲ所持ス
 ル越獄等ノ患アル時ハ直ニ之ヲ沒収スベシ

第十五條 典獄若クハ看守長ノ責任ヲ以テ囚徒ノ起寢後
 ト入寢前ニ囚徒ノ名ヲ点呼シ人員ノ検査ヲナスベシ

第十六條 少ナクモ二十四時間内ニ三回ハ囚徒カ期定ノ
 場所ニ坐居スルヤ或ハ脱監ヲ企圖スルノ模様ナキヤヲ
 視察スベシ

又右検査ノ一部ヲ看守若クハ監護ニ分擔セシムルコト
 ルベシ但シ必要ナル場合ニ於テ典獄若クハ看守長自ラ
 巡檢スルノ時ト相抵觸スルナカレ

第十七條 監長タル者ニシテ女囚徒ヲ点檢スル時ハ監讓
 婦一名ヲ伴隨スベシ

第十八條 監長ハ毎日ノ囚徒ノ人員及重要ノ事件ヲ報告
 スル處ニ報告書ヲ司法大臣ニ呈送シ及ヒ左ノ諸官吏ニ

白耳儀未己決兩監獄則

送達スベシ

州長、大檢事、檢察官、軍隊指令官、軍法會議ノ檢事及公安掛官

第十九條 典獄若クハ看守長ハ該一般ノ規則ニ依リ監獄行政委員會ヲ開會スル時ニ當テ己ノ意見書ヲ呈出スルヲ得

又該規則ヲ以テ規定スル教令及特定規則ノ編纂ヲ討議スルヲ得

(ロ)看守

第二十條 看守ハ典獄若クハ看守長ノ命令ヲ直奉シ且其口達或ハ書付ヲ以テ下命スル教令ヲ遵奉スベシ

第二十一條 看守ハ男囚部ニ勤務スル者トナス故ニ長官

ノ命アル時或ハ至急ヲ要スル時或ハ禍害ヲ醸生スル時ニ非レバ何様ノ口實ヲナスモ女囚部ニ入ルヲ許サス又假令ヒ女囚部ニ入ヲ許サレタルモ必ズ監護婦一名ヲ伴隨スルヲ要ス

第二十二條 看守ハ常ニ諸規則ノ執行ヲ遵奉スヘシ又特別ニ委任スル處ノ事務ハ秩序、衛生、内庭諸物品ヲ監定スルノ事務トナス

又看守ハ常ニ囚徒ト親睦ナラズシテ眞ノ慈愛心ト正直心トヲ以テ待遇スルヲ緊要トス但シ看守人タル位置ヲ失スルヲカレ

其他囚徒ニ向ヒテ疎暴ノ所爲アルヲ禁ス但シ囚徒頑固ニシテ看守ノ命令ヲ奉セサル時ハ此限ニアラス

第二十三條 建物ヲ打破シ或ハ動産物ヲ損害シ或ハ其他ノ物ヲ破碎スル等ノ暴行ノレアルモ看守ノ責任ヲ以テ防制スル能ハサルカ或ハ遺忘怠慢等ヨリ生シタル損害ヲ受ルコアル時ハ直チニ其旨ヲ監長タル者ニ報告スベシ若シ或ハ警留シテ其報告ヲ怠タル時ハ之ガ所罰ヲ受クベシ

第二十四條 看守ニ在テ何様ノ口實ヲナスモ監察スヘキ場所ヲ退去スルヲ許サズ此外看守ノ發見シタル重要事ト及監獄ノ秩序安寧上ヨリ生シタル禍害アリト認ムル時ハ直ニ其旨ヲ監長タル者ニ報告スベシ又毎朝定時限ニ於テ看守ノ事務上ニ關スル報告ヲナシ且典獄ノ教令ヲ受クルカ爲メ典獄ノ詰所ニ集會スベシ

第二十五條 看守ノ事務ハ總テ行政委員會ヨリ司法大臣ノ認可ヲ得テ教令スル者トナス

(ハ)門監

第二十六條 看守ヲシテ門監ヲ勤務セシムルカ爲メ典獄自ラ之ヲ任命スルヲ例トス公然ノ接見者タル性質アラサル者官ノ許可ヲ得サル接見者及ヒ接見スル旨意ノ判然ナラサル者等ヲ門監内ニ入レシムルヲ禁ス

第二十七條 門監者ハ接見者ノ免許ヲ嚴密ニ検査スヘシ若シ其ノ疑フヘキモノアル時ハ直ニ之レヲ監長ニ出ス
監獄出入者ノ所持スル物品ハ悉皆之ヲ検査シ若シ規則

ニ抵觸シタル物品ナリト認ル時ハ之レヲ持シテ入門スルヲ許サス

(ニ)使吏 髭剃人

第二十八條 某監ニ在テ使吏ヲ要スル時ハ行政委員會ニ於テ之ヲ任命シ且其給料ヲ定メタル處ノ者ヲ以テ使吏トスヘシ但シ司法大臣ノ特任スル者ハ此限ニ非ラス

第二十九條 監獄ノ特定規則ヲ以テ規定シタル期限内ハ使吏タル者毎日監内ニ在テ執行スヘキ事務ノ書類ヲ監長ヨリ受クベキ者トス

第三十條 囚徒ニ物品ヲ與ヘシムル時ハ使吏ヲ以テセシメテ看守或ハ監護人ヲ以テ與ヘシムベシ

第三十一條 使吏ハ監房ノ内部ニ入り及ヒ囚徒ト直ニ交

通スルヲ禁ス

又囚徒ニ金錢ヲ請ヒ若クハ之ヲ受ケ若クハ物品ヲ賣買スルヲ禁ス之ヲ犯ス時ハ罰スヘシ

第三十二條 使吏ハ監内ニ入ルヲ禁スト雖モ髭剃ヲ彼レニ任シタル時ハ監内ニ入ルヲ許可ス

此髭剃業ヲ任スルヲ要セサル時及ヒ在監囚ノ多數ナラサル時ハ行政委員會ノ許可シタル給料ヲ附與スル處ノ髭剃人ヲ毎日定時間ニ來監セシムルヲアルベシ

(ホ)監護婦

第三十三條 女囚部ノ監察ハ婦人ヲ以テ之ヲ充ツ而メ其事務ハ男囚部ノ看守ト同一タルヘシ

第三十四條 女囚徒ノ多數ナラサル監獄及ヒ特別ニ女監

察ヲ要セサル監獄ニ在テハ監長タル者ノ妻若クハ其親
屬或ハ看守ノ妻若クハ司法大臣ノ許可シタル婦人ヲ以
テ之ヲ任命セシムルコトアルベシ

第三十五條 宗教ノ尼僧ニ女囚徒ノ監護ヲ任スル處ノ監
獄ニ於テハ司法大臣ト典獄若クハ宗教會社長ト取結ヒ
タル契約ヲ以テ其尼僧ハ監長ニ隸屬セシム

第三十六條 其監護ニハ學習ノ時ニ當レバ上席シ、工業ニ
就ク時ハ之レヲ指揮シテ己レノ教令ヲ奉セシム又時ト
シテハ讀書ヲ教授シ、病囚ヲ看護シテ規則類ヲ精密ニ執
行スルヲ職務トス此他庖厨、麵包製造及ヒ麻取扱等ヲ職
務トナス
上等行政官ヨリ豫メ許可ヲ得ルニ非サレバ外役ヲ囚徒

ニ命スル能ハス又囚徒ニ附與スル給料ヲシテ職工ノ給
料ヨリ下給ナラメサルコトヲ監察スヘシ

第三十七條 尼僧ハ規則ヲ遵奉シ、行政委員會、典獄等ニ隸
屬シテ己レニ托任セラレタル事務ヨリ生スル處ノ事實
ヲ報告スヘシ

第三十八條 行政委員會ヨリ司法大臣ヘ具申シテ許可セ
ラレタル教令ハ尼僧ノ特別規則ニ關スルコトヲ規定スル
者トナス

(ハ) 教誨師 醫師 教師

第三十九條 教誨師、醫師及ヒ教師ノ職務及ヒ義務ハ第八
編及ヒ第十編ニ細記ス

(ト) 各等ノ司獄官吏ニ適用スル法則即チ規律休課及

七 罰則

第四十條 司獄官吏ハ事ノ如何ヲ論セス左項ノ場合ニ非

サレバ免職或ハ廢官トナルヲ得ス

一 項 司法大臣ノ特別許可ヲ得スシテ其ノ職業ヲ營爲

シ或ハ監獄外ニ於テ官吏タルノ職ヲ行フ

二 項 或ル名義ト稱号トヲ設ケテ監獄ノ工業請負人若

クハ供給者ト直接或ハ間接ニ同盟シテ職業ヲ營爲ス

ル

三 項 上等行政官ノ特許ヲ得ルニ非ラスシテ監獄ニ附

屬スル諸物品ヲ私用スル

四 項 上等行政官ノ特許ヲ得スシテ囚徒一名或ハ數名

ヲ私使スル

五 項 或ル口實ヲ以テ贈物ヲ囚徒或ハ囚徒ノ親屬、友人

或ハ其他ノ人ヨリ受領シ或ハ其約束ヲ爲ス

六 項 囚徒ニ物品ヲ賣買、貸借スル

七 項 囚徒ニ屬スル處ノ物品ヲ監獄ヨリ出入シ或ハ監

長ノ許可ヲ得スシテ囚徒ノ爲メニ用達スル

八 項 監獄ノ内外ニ於テ囚徒ニ關スル通信ヲ容易ニナ

ス

九 項 輕重罪未已決囚ニ於テ辨護人ヲ撰定スル時ニ當

テ之レカ助言ヲナス

十 項 囚徒或ハ囚徒ノ親屬ト共ニ飲食スル但シ負債

囚ト雖モ亦タ同一ナルベシ

十一 項 禁獄監或ハ他ノ監獄ヨリ中央監獄ニ護送スル

囚徒或ハ王國ヨリ追放スル囚徒ノ出發ヲ慈惠心ヲ以テ遲替セシムルコト

第四十一條 債主或ハ其代理人ヨリ直ニ負債償却ヲ認ムラレタル官吏ハ免職スベシ

第四十二條 看守及ヒ監護凡疾病ニ罹ル時ハ監獄病院ニ於テ治療ス但シ此場合ニ當レバ別室ニ入レ病囚ニ給與スル食物ヲ給與ス

第四十三條 典獄或ハ看守長ノ親屬ヲ除クノ外他ノ官吏ノ親屬ハ司法大臣ノ特許ヲ得ルニ非ラサレバ監獄署内ニ住居スルヲ許サス

第四十四條 官吏ノ親屬ヲ以テ組織シタル小官吏ハ猥ニ監内ニ入ヲ禁ス故ニ内庭ノ周圍或ハ巡察線路ノ内部ニ

入ルヲ禁ス

第四十五條 官吏ノ親屬者カ外住ナル時ハ典獄或ハ看守長ノ許可ヲ得ルニアラサレバ其妻子、兩親、友人及ヒ其他ノ人ハ官吏ノ誥所ニ入ル、コトヲ禁ス

第四十六條 何レノ時ニ在ルモ又タ何様ノ口實ヲ以テスルモ典獄ノ許可ヲ得ルニアラサレバ官吏ノ誥所ニ囚徒ヲ來ラシムルヲ許サス

第四十七條 監獄署内ノ住居ヲ許可セラレタル者ヲ除ク者ノ外ハ行政委員會ノ許可ヲ得ルニアラサレバ夜中署内ニ入ルヲ許サス

第四十八條 出門スルノ許可ヲ得タル看守及監護ト雖モ閉門時間マテニ歸署スヘシ但シ特許票ヲ所持スルノ場合

ハ取除トス

第四十九條 閉門後ニ至テ出門スルヲ許サス但シ監長及
ヒ監長同伴スル者ハ此限ニアラス

第五十條 司獄官吏ニシテ己レニ命セフレタル義務ヲ怠
ラリ或ハ穢衣ヲ着スル時ハ時宣ニ依リテ以テ行政委員
會ニ之レヲ忠告スベシ

第五十一條 典獄或ハ看守長ハ看守ニ對シテ假ニ規律刑
ヲ施スコアリ而シテ其旨ヲ月番行政委員ニ報告シ又タ事
件ノ重大ナル時ハ之レヲ州長ニ報告スベシ

第五十二條 諸官吏ニ在テ義務ノ一部ヲ怠タリ或ハ耻辱
トナル可キ所行アル時ハ司獄官吏ノ構成シタル規則ヲ
以テ之レヲ處罰スヘシ

第二編 監獄一般ノ監督 監督委員

第五十三條 未己決兩監獄ノ監督委員ハ五名乃至七名ヲ
以テ組織ス而シテ此委員ニ兩監獄ノ監督ヲ托任ス但シ諸
郡ノ大撿事及ヒ邑長ヲ右委員ニ編入スルノミナラス此
他軍法會議ノ設置アル地方ニ於テハ軍法會議撿事ヲ集
會セシムベシ

又此監督委員ヲ稱シテ何々未決監行政委員會若クハ何
々已決監行政委員會トス

第五十四條 中央監獄監督委員會ヲ設置スル地方ニ在テ
ハ該委員ヲ以テ未己決兩監獄特別監督委員トナシ前條
ノ委員ハ之レカ副員トナス

第五十五條 司法大臣ハ監督委員會ノ人員ヲ決定シ其會

ヲ要スル毎ニ司法大臣之レヲ招集ス

第五十六條 監督委員會ノ議長ハ州長トナス其副議長ハ

司法大臣其委員中ヨリ撰被スルヲ以テ例トナス

第五十七條 議長及ヒ副議長事故アリテ出席セサル時ハ

委員中ノ高齢者ヲ以テ議長ノ席ニ上ラシムヘシ

第五十八條 此會ノ書記ハ司法大臣ノ具申ヲ以テ國王之

レヲ任命ス

州ノ法律第三章第六十九條ト及ヒ司獄官吏構成規則ニ

依リ州費ヲ以テ其俸給ヲ給與ス

第五十九條 監督委員ノ改撰ハ二年毎ニ闡引ヲ以テ執行

ス但シ其ノ前勤者ヨリ改撰スルヲ例トス

第一ニ監督委員會ヲ退會セントスル者アル時モ亦闡引

ヲ以テ其順序ヲ規定ス故ニ該委員ノ改撰ヲ執行スルヲ
許ス

第六十條 監督委員ハ上等行政官ニ隸屬シテ左ノ事務ヲ

監督スルヲ任ス即チ監内ノ規律、官吏、家屋、動産物、給與ノ

一、囚徒ニ關スル規律及ヒ階級ノ一商肆ノ一ガシチメ置スル内ニ設

販賣店ナリ衛生、攝生、掃除、工業、修身及ヒ宗教規則等ニ關スル

事務之ナリ

此外諸規則ノ執行ヲ注意シテ監獄ニ利益ナル事業ナリ

ト判認スル時ハ之レヲ實行スルコトアルベシ

第六十一條 各三月一期拂ニ當ナレバ諸業ヨリ生シタル全員

ヲ國庫ニ上納スルコトヲ監督ス此他國庫上納ニ關スル書

類即チ上納ノ正副兩証書ヲ州長ニ送達スベシ

第六十二條 至急ニ命令ヲ施スコトヲ要スル時ハ之レヲ命
シ而シテ直ニ其由ヲ州長ニ報告スベシ

第六十三條 監獄行政委員會ハ少ナクモ十五日每一回監
獄所在ノ地方ニ於テ開會スベシ

第六十四條 該會員ハ司法大臣ノ許可ヲ得テ編成シタル
特別規則ヲ以テ其順序討論ノ方法、監督事務及ヒ職務ヲ
規定スベシ

第六十五條 該會ハ少ナクモ三名ノ出席員アルニ非サレ
バ討論スルヲ許サズ

又該會ハ州長ニ直通スルヲ得但シ議長欠席ノ時ハ副議
長及ヒ書記代テ其通信書ニ手署セシムヘシ

第六十六條 書記ハ司法大臣ノ命シタル雛形ヲ以テ製シ

タル調査簿及ヒ出席簿ヲ所持スヘシ但其寫書ヲ六月毎
ニ上等政行官ヘ呈スベシ

第六十七條 該會員ノ一名ヲ以テ少ナクモ每週間三回若
クハ數々監獄ヲ巡視セシム

第六十八條 此月番委員巡視ノ時ハ懲罰囚及ヒ別房囚ヲ
巡視シテ己レニ接見ヲ請フ處ノ囚徒ヲ呼出サシムベシ

第六十九條 該委員會ニ於テ諸規則執行上ニ必要ノコト
アリト認ムル時ハ直ニ其方法ヲ實施スヘシ

第七十條 月番ハ非常ナル事件ヲ惹起シタル時ハ直ニ該
會委員ヲ招集スヘシ

第七十一條 月番委員ノ姓名ハ書記室及ヒ囚徒ノ集合ス
ル所ニ貼付スベシ

第七十二條 該會ハ事務上、規律及ヒ道德法等ニ關シテ注意スルコトアル時ハ委ク書記ヲ以テ別簿ニ之ヲ記入セシム加之ノミナラス已レカ職權ヲ以テ與ユル處ノ命令及ヒ教令ヲ記入シテ司法省官吏巡回ノ時ニ於テ之レヲ出サシムヘシ

第七十三條 現今ノ委員ヲ第五十三條ノ人員ニ減員スルハ死亡者、辭職者及ヒ退職者ノアル時トナス

第七十四條 上等行政官ハ司獄官吏ニ囚徒ヲ改良スルノ目的ヲ達セシメンカ爲メ囚徒改良ノ會社ヲ組織セシムヲ獎勵スヘシ就中囚徒ニハ分房法ヲ遵守スルト官吏ノ勸諭ヲ循奉スルト囚徒自ラノ利益及ヒ其親屬ノ利益ヲ計リ速ニ安樂社會ニ編入スルコトヲ得ルヲ獎勵スヘシ

第三編 囚徒ノ階級

第七十五條 囚徒ハ未已決兩囚ノ性質ヲ以テ二ニ大別ス但シ其諸囚徒ハ左項ノ諸監獄ニ入レシムヘシ

一項 輕罪監ニハ左ノ囚徒ヲ留置ス

(イ)懲治輕罪囚(ロ)捕縛狀ヲ下スマテノ重罪未決囚(ハ)再犯者若クハ裁判費及ヒ罰金ヲ出ス能ハサル者(ニ)負債囚(ホ)家族法ヲ施用スル幼囚

二項 重罪監ニハ左ノ諸囚徒ヲ留置ス

(ヘ)逮捕狀ヲ發セラレタル重罪未決囚(ト)轉送若クハ刑ノ執行ヲ待ツ處ノ重罪囚

三項 「ア」レ「イ」ブ「エ」タル「監」ニハ左ノ諸囚徒ヲ留置ス
(チ)軍事囚

四項留置監ニハ左ノ囚徒ヲ留置ス

(リ)豫審裁判官ノ裁判ヲ待ツ處ノ有罪者(ヌ)保安官ノ依頼ヲ以テ入監セシムル外國人及ヒ外國政府ニ引渡スベキ有罪者(ル)退放スベキ囚徒

五項 フリゾン、アール、ペーヌ監ニハ左ノ諸囚徒ヲ留置ス

(ナ)六月乃至一年ヲ越過セサル禁錮囚但シ此囚徒ヲ獨居セシムルニ充分ナル獨居房ヲ有スル時或ハ行政法ヲ以テ在監期ヲ延期スルヲ得ル時トス(ワ)中央監獄ニ護送スベキ六月以上若クハ一年ノ禁錮囚(カ)違警罪裁判所若クハ縣ノ軍事裁判所ニ於テ宣告セラレタル囚徒ヲ入獄セシム可キ特別監ノ設置ナキ處ノ囚徒(ヨ)一年以上ノ禁錮

囚若クハ重罪囚ニシテ獨居ヲ許サレタル囚徒

第七十六條 右ニ區別シタル諸監獄ハ重ニ輕罪監ナレバ

重罪監ニ適用スルヲ僅々ナリトス

第七十七條 女囚徒ハ男囚ト交通ヲ全ク切斷シタル特別

ノ場所ニ入レシムヘシ

第七十八條 遊女ノ囚徒ハ他囚ト全ク隔離シタル別房ニ

入レシムヘシ

第七十九條 男女幼囚モ亦タ隔離シタル場所ニ入レテ丁

年囚ト全ク隔絶スルヲ要ス

第八十條 年齢最モ弱少ナル幼者ハ其母ト共ニ入監スル

ヲ許シ之カ母ヲシテ養育セシム但シ此場合ハ家族法ヲ施用スル能ハサル時トス故ニ成ル丈特別ノ場所ヲ設ク

ベシ、此幼兒ニハ特別ナル寢具ヲ給與ス又々其年齡ニ從
 ヒ食物ハ定量ノ四分三或ハ二分一或ハ四分一ヲ給ス但
 シ醫師ノ命ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス
 有ノ如キ特別法ヲ施ス可キ處ノ幼兒ヲ入監セシムル時
 ハ其旨ヲ行政委員會ニ報告スル時ハ委員ハ其場合ニ從
 ヒテ斷然ト許可スルヲアリ若クハ其親族ニ送附シテ監
 護セシムルヲアリ若クハ千八百二十二年二月二日ノ國
 王ノ決定書及ヒ千八百四十三年九月七日ノ司法省達書
 ニ依リテ之レヲ慈惠院ニ入レシムルヲアリ
 第八十一條 前ノ諸監獄ノ外ニ「ヒストール」監（囚徒ノ私費
 ナ云フ）ヲ設ケ秘密囚及ヒ處罰囚ヲ入シム但シ此監ハ死
 刑ヲ宣告セラレタル罪囚（其執行ヲ待ト同一ノ待遇ヲ施

スモノトス

第八十二條 囚徒ノ階級ニ從ヒ互ニ交通往來スルヲ禁ス
 各部ノ囚徒ハ縱令何様ノ口實ヲナスモ他ノ部内ヲ往來
 スルヲ許サス

第八十三條 多數ノ分房ヲ設クル獄ニ於テハ一部毎ニ嚴
 重ニ區隔スルヲ要ス

第八十四條 總テ諸囚徒ハ成ル丈各房毎ニ區別ヲ設ケ假
 令ヒ雜居ヲ許スモ未己決兩囚ハ充分ニ隔絶ナル場所ニ
 入レシムルヲ緊要トス故ニ二名ノ囚徒ヲ一房ニ入ル、
 ヲ許サズ

第八十五條 雜居ノ寢室ト雖モ成丈互ニ物品ノ交通ヲ防
 守スルノ方法ヲ以テ一名宛ニ閉塞スヘシ

第四編 取締及ヒ保安

第八十六條 典獄若クハ看守長ハ一日數回監獄ノ諸部ヲ
巡視シテ諸官吏カ正ク各事務ヲ行フヤ否ヤヲ検査ス

第八十七條 監護尼ノ長ハ女囚徒區諸部ヲ巡視シテ己レ
ニ托任セラレタル區部ノ秩序及ヒ安寧ニ關スル事件ヲ
生シタル時ハ直ニ其者ヲ典獄ニ報告スベシ

第八十八條 監護尼ハ每朝典獄ノ詰所ニ來リ典獄ノ教令
ヲ受ケタル時ニ至レバ一日中ノ事務ニ關スル書類ヲ典
獄ニ送附スベシ

第八十九條 自四月一日至九月三十日ノ間ハ午前五時ニ
開門シ午後十時ニ閉門ス又自十月一日至三月三十日ノ
間ハ午前六時ニ開門シ午後九時ニ閉門ス但シ緊要ナル

諸門ノ錠ハ門監ヨリ典獄ニ渡シ閉門後ニ於テ之ヲ納メ
開門前ニ於テ之ヲ受取ルヲ例トス

第九十條 典獄ハ看守ヲシテ廊下、内庭、巡羅道、及ヒ其他巡
視ヲ要スベキ諸所ヲ不定時ニ巡視セシム又タ此巡視ヲ
任セラレタル看守ノ勤怠ヲ検査センカ爲メ委員會或ハ
上等行政官ノ命スル處ノ方法ヲ施用ス

第九十一條 前ノ不時ノ巡視ハ女囚區ニ於テモ同ク之ヲ
執行ス

第九十二條 各部ヨリ典獄ノ詰所ニ通スル處ノ鐸鈴ヲ懸
ケシム

第九十三條 不意ニ禍害ヲ發生シタル時ハ監護婦ハ看守
ノ扶助ヲ請ハシム

白耳儀未己決兩監獄則

第九十四條 危險ノ囚徒ニシテ已レノ着スル衣服類ヲ破壊スル者アル時ハ彼レカ分房若クハ寢室ニ在ル毎ニ衣服ヲ取上ケ翌朝ニ至テ之レヲ與ヘシム(如キ衣服類ヲ破ルヲ以テ衣服ヲ與ヘシムルヲナラシメ)

第九十五條 右ノ如キ場合アル時ハ監長ハ何時ニ限ラズ男女兩囚徒ヲ点檢スルヲ要ス

第九十六條 暴行或ハ司獄官吏ニ抗抵スルカ如キ囚徒ニハ左ノ衣類ヲ被ラシメキウツド、スワイタ安寧房ニ入ラシム(案ナルニ)但シ此場合ニ當レハ其旨ヲ監長ニ報告スベシ

- 一「カミソール」(狂人等ノ暴行ヲ働ラク時ニ用ヒ)
- 二「サンチウール、ド、フアルス」(帶ノ類ニシテ右ト同ク身体ニ)
- 三「ムート」(手械ナリ)

第九十七條 右條ノ施体刑ヲ施ス時ハ安寧ヲ計リ且十分

良ク注意シテ其旨ヲ行政委員會ニ報告スベシ

第九十八條 監長ハ犯罪ノ性質ヲ檢査シテ其輕罪ト重罪ヲ明瞭ニ証明シ而後チ之ヲ調査簿ニ記入シ其正書ヲ國王ニ奏呈シ副書ハ上等行政官及ヒ委員會ニ送達シテ而後チ其旨ヲ月濟委員ヘ告知スベシ

第五編

囚徒入監則

第九十九條 入監ノ諸囚徒ハ法律及教令書ニ依リテ以テ其姓名ヲ簿冊ニ記入ス

又特別簿ニハ入監ノ囚徒ニ關係スル統計上ノ事及ヒ毎年三月期ニ當テ上等行政官ニ奉呈スル必要ノ事件ヲ記

入ス

第百條 右諸簿ニ記入濟ノ後チ男女ノ姓ニ從ヒ各區（男區女區）

ナリニ誘導シテ「ヤンブルダダント」（ダダント）「リヤント」ハ待ト云義ナリ

故ト待診ニ入レシム但シ此診察ハ入監ノ當日或ハ翌朝ニ

在テ速ニ施行スルヲ要ス

第百一條 監長ハ入監囚ノ身分ニ從ヒ直ニ之レチ特定ノ

獄ニ入レシムルヲアリ但シ其特定ノ獄ニ入レシムル時

ハ之レカ指揮ヲナス處ノ官吏其旨ヲ報告スベシ

右特定ノ場所ニ入シムル者ハ重ニ負債囚及ヒ「ピスト」

ル（獄）入監スル者（テ）ヲ許サレタル囚徒トス

第百二條 囚徒ノ疾病ニ罹ル時ハ直ニ病室ニ送附ス若シ

其重症ナルカ或ハ傳染病ナル時ハ醫師ニ證明セシメ而

シ直ニ其旨ヲ大檢事ニ報告スヘシ

右ニ關スル諸官吏ノ檢査ヲ經タル後チ檻車ヲ以テ該病

者ヲ監獄ヨリ遠離シタル民立病院ニ送致スヘシ

若シ民立病院ニ送致スル能ハサル者アル時ハ醫師ノ命

ニ依リ之レチ特別ノ監房或ハ病室ニ置キテ之レニ特別

ノ所置ヲ施行セシム

第百三條 入監囚ヲ診察シタル後直ニ入湯セシメ而シ之

レチ入シムル處ノ區部或ハ監房ニ誘導ス

若シ入監囚ニシテ讀書スル能ハサル者ハ監獄ノ秩序、法

則及ヒ規律ニ關スル諸規則書ヲ讀聽セシムベシ

第百四條 囚徒カ入監ノ時ニ於テ金錢若クハ寶玉類ヲ所

持スレバ監長之レチ取上ケ出監時ニ至ルマテ之ヲ貯藏

スルヲ例トス然レモ在監中要スル處ノ金錢ニ之ヲ用
トスル時ハ此限ニ非ラス又々右金錢類ヲ取上シムル時
ニ當テ行政委員會若クハ月番委員ニ在テ反對ニ之ヲ許
スハ特別ノ場合トス

第二百五條 未決囚及ヒ負債囚ヲ除ノ外囚徒ニシテ分房法
ニ從フ處ノ囚徒ハ其分房ノ番号ヲ左腕ニ附ス

第六編 規律及ヒ取締

第一章 諸級ノ囚徒ニ施スベキ普通法

(イ) 課役、命令及ヒ監察

第二百六條 囚徒ノ課程及ヒ攻業學問ノ順序等ハ各監特別
規則ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百七條 入寢及ヒ起床時間ハ夜寢分房若ハ合同寢房ニ

在ル時間ヲ長カラシムルノ適不適ヲ計リテ之ヲ規定ス
ベシ

第二百八條 監長ハ右起床入寢時間ヲ改正スルノ旨ヲ行政
委員會ニ報告スルヲ要セス其季候ノ變遷ト囚徒ノ階級
トニ從ヒ己ノ意見ニ依テ隨意ニ之ヲ伸縮スルノ權ヲ有
ス

第二百九條 囚徒ノ修業日並ニ甲ヨリ乙ニ行ク可キ時ハ凡
テ号鐘ヲ以テ之ヲ報スルヲ例トス

第三百十條 囚徒ハ起床ノ号鐘ヲ聞クヤ直ニ衣服ヲ改メ寢
衣及ヒ足袋ヲ振掃シ沐浴盥漱シ寢具ヲ疊ミ然ル後順序
ヲ正ウシ且ツ沈黙ヲ行フベシ

第三百十一條 喫飯時間ハ第二百六條ニ記載スル如キ特別規

則ヲ以テ之ヲ定ム

第一百十二條 入寢時限ニ至ハ各其序次ニ正シ沈黙ヲ行ヒ己ノ寢房ニ赴キ寢具ヲ布置シ而ル后安眠ニ就クヲ例トス然レモ囚徒ニシテ讀書若クハ工業ヲ入寢時後ニ修セシコトヲ請フ者アル時ハ行政委員會ノ特許ヲ經テ之ヲ許ス即チ冬時ハ午後九時マデ夏時ハ午後八時マデトス但シ此ノ時内ニ消費スル所ノ燈火費ハ悉ク自辨タルベシ

第一百十三條 朝夕ノ神拜ハ各區部ノ看守及ヒ監護禮拜堂ニ臨監シ高聲ヲ發シテ讀經セシム又分房囚ハ各房ニ在テ低聲ヲ以テ神拜讀經セシムベシ

第一百十四條 諸級ノ囚徒ハ交々看守及ヒ監護吏ニ監察セシム
ノ運動場ニ誘致ス又其運動時間ハ季候ニ從ヒ伸縮アリト雖モ少ナクモ午前午後各一回宛ノ運動ヲナサシム
第一百十五條 囚徒ノ健康ナル者ハ運動ノ外掃除及ヒ庖厨ヲ掌ラシムヘシ

第一百十六條 温身室運動場寢房及ヒ其他囚徒ノ集合スル場所ノ看守ハ嚴重ナル方法ヲ以テ或ハ喧騒シ或ハ秩序ヲ妄リ或ハ不行狀若クハ危險等ノ一ヲ防守スベシ又若干名ノ看守及ヒ監護ヲ分房其他ノ各區ニ配置シテ晝夜囚徒ヲ巡察セシムベシ若シ前項ノ目的ヲ首尾能ク達スルヲ得ルモハ其建言書ヲ監長ヨリ委員會ニ具申シ委員會之カ決定ヲ經タル後女囚區監護尼長ノ意見ヲ問ハシム

第一百十七條 凡テ監察事務ヲ囚徒ニ托シ或管鑰ヲ囚徒ニ預ケ或ハ囚徒中互ニ事務ヲ相囑托スル等ノコトアルキハ監察吏ハ直ニ之ヲ嚴禁ス

(ロ) 規律及ビ囚徒ノ義務

第一百十八條 囚徒ハ定示サレタル場所ニ安居シ監察官吏ノ許可ヲ得ルニ非ラサレバ其場所ヲ退去スルヲ許サズ起床入寢時ノ外吏員ノ許可ヲ得スシテ妄ニ寢房ニ入テ禁ズ

第一百十九條 合同房ノ囚ハ如何様ノ托言ヲ造爲シテ分房囚ニ交通セント欲スルモ決シテ之カ交通ヲ許サズ

第一百二十條 囚徒ハ監察官吏ニ對シテ不平ヲ懷クテ得ズ須ラク從順ニシテ監察官吏ノ命令及ビ獄則ノ執行ヲ遵

守スルヲ要ス

第一百二十一條 囚徒ハ己レノ寢具、監房、寢房及ビ其他己カ所ノ在場所ヲ精淨ニ洒掃スルノ義務ヲ負擔ス

第一百二十二條 囚徒ハ左ノ所爲アルコトヲ禁ズ

土壁、板壁及ビ寢具ヲ汚穢コシ或ハ破壊スルコト、晝寢スルコト、食卓ヲ私用スルコト、常ニ焚火ノ場所ニ至ルコト、監獄所屬ノ諸品ヲ汚シ及ビ破碎スルコト、其他常日宜ク保藏スヘキ物品ヲ私用スルコト等之ナリ

第一百二十三條 故意ヲ以テシ或ハ怠慢ニシテ衣服、寢具其他ノ器具ヲ破壊シ或ハ腐敗セシメタル囚徒ハ其諸物品ヲ償ナハシム然レモ之ヲ償フ能ハサル時ハ委員會ニ在テ之ニ該當スベキ罰則ヲ付科ス

第二百二十四條 合同房ニ在テ衣服類ニ損害ヲ生セシム其
何人ノ所爲ニ出ツルカチ明ニスル能ハサル時ハ被害者
其責ニ任ス

第二百二十五條 放歌及ビ高聲ヲ發スルヲ禁ス故ニ喧シキ
會話、口論及ビ相聞詰シテ請願スル等ノコトアルヲ禁ス

第二百二十六條 喫飯時間、就業時間及ビ寢房ニ在ル時ハ沈
黙ヲ行ハシムベシ

第二百二十七條 運動時間ノ外ハ喫烟スルヲ禁ス假令運動
時間ニモセヨ尙ホ之レカ爲メ惡弊ヲ生シ或ハ安寧ヲ妨
害スル者アル時ハ又タ之ヲ禁スベシ

第二百二十八條 搦突及ビ爭論シ或ハ秩序ヲ亂スカ如キ遊
戯ヲナスヲ禁ズ

第二百廿九條 如何ナル物品ダリト雖モ互ニ賣買シ或ハ交
換シ或ハ金錢ヲ貸借スルヲ禁ズ

第三百十條 如何ナル囚徒ト雖モ剃刀、小刀及ビ其他危險
ナル器械ヲ所持スルヲ禁ズ但シ監長ノ特許ヲ得タル者
ハ此ノ限ニアラズ

第三百十一條 囚徒ハ何時タリモ已レノ請願書ヲ監長或
ハ委員會、月番委員及ヒ上等官吏ニ申呈スルコトヲ許ス
又教誨師及ヒ醫師ノ來訪ヲ請求スルヲ許ス

第三百十二條 管鍵ヲ施シタル一函ヲ毎朝各區ノ各房ニ
掛ケ置キ囚徒カ司獄官吏及ヒ其他ノ官吏ニ對シテ苦情
アルモ其ハ其上申書及ヒ請願書ヲ之ニ投書セシム
此鍵ハ月番委員ニ渡シ置キ而シテ月番委員之レヲ開閉シ

其投書ノ指名者ニ配致ス

第三百三十三條 此規則ヲ二國ノ語ニ反譯シ(獨佛ナ)囚徒ノ
集合スル房室、應接所、各房、商肆等ニ貼付シ又之レト同ク
商肆ニ在テ賣却スル所ノ物價表及ビ委員ノ姓名録ヲ貼
付スベシ

(ハ) 面接及ビ通信

第三百三十三條 監獄署外ノ人或ハ署内ノ人タリト雖モ囚
徒ニ關係ナキ人ハ左ノ免狀ヲ所持スルニ非ラサレバ囚
徒ニ面接スルヲ許サス

- 一 未決囚ニ面接スル時ハ始審裁判所大檢事ノ免狀
- 二 重罪未決囚ニハ檢事長ノ免狀
- 三 軍事囚ニハ鎮臺指令官、軍法會議檢事等ノ免狀

四 政府ノ特法ニ附スル外國囚ニハ其掛官吏ノ免狀

五 已決囚、負債囚及ヒ右ニ列記セル所ノ數項ノ諸囚ニ
ハ州長或ハ其裁判所ノ副長ノ免狀

凡テ免狀ニハ長官ニ對シテ尽スヘキ義務ヲ示ス但シ免
狀ニ示シタル囚徒タルモ面接規則ヲ犯ス時ハ所罰スル
トアルヘシ右ノ場合ニ於テハ須ラク治罪法第六百十三
條ニ依リ始審裁判官或ハ重罪裁判長ノ附與スル處ノ命
令ニ相抵觸スルヲキ様注意スベシ

第三百三十五條 特別規則ヲ以テ面接ノ月日及ヒ時間ヲ定
ム然レモ輕重罪未決囚ハ一週間四名以上ノ面接者アル
ヲ許サス又已決囚ハ二名以上ノ面接者アルヲ許サス但
シ裁判官或ハ掛官吏ヨリ下附シタル特許狀アル者ハ此

限ニ非ラス

第三百三十六條 州長ノ特務官吏或ハ長官及ヒ檢事長或ハ大檢事等ノ遣派スル處ノ代言士ハ特別規則ヲ以テ定メタル時間内ニ毎日面接スルヲ得ベシ

第三百三十七條 面接ヲ禁セラレタル囚徒ハ監獄外ノ人及ヒ他ノ囚徒ト面接交通スルヲ許サスト雖モ裁判官ノ特許アル者或ハ此手續ヲ命スル處ノ官吏ニ面接スルヲ許ス

第三百三十八條 左ノ諸官吏ハ自由ニ監獄内ニ來住スルヲ得ベシ即チ檢事、上等裁判長、鎮臺軍法會議長、始審裁判官、軍法會議長、鎮臺指令官、軍法會議檢事、諸州ノ書記官及ヒ司法大臣ノ代理官等之レナリ

第三百三十九條 前條ノ外ハ諸省廳、州長或ハ委員會副長ノ免狀ヲ所持スルニ非レバ囚徒ト面接スルヲ許サス

第四百十條 面接者ハ應接所或ハ之ニ代用スベキ場所ニシテ看守或ハ監護ノ監臨スルニ非ラサレバ囚徒ニ面接スルヲ得ス

又又右ノ外不時ノ場合ニ於ケル、或ハ分房囚或ハ州長或ハ委員會ノ特許アルニ非サレバ凡テ前條ノ規則ヲ遵守スベシ

如何ナル妨害アラサル場合ナルモ代言師諫諭者及ヒ代人ヲリトモ特許ヲ得ルニアラサレバ自由ニ交通スルヲ許サス

第四百十一條 面接者ハ多人數同時ニ面接ヲ許サス

故ニ同應接所内ニ於テ男囚、女囚同時ニ面接スルヲ許サ
ス又此時間ハ面接者ノ人員ニ比例シテ之ヲ制限ス

第四百二十二條 面接者ハ何如ナル事情アルモ囚徒ト共ニ
飲食スルヲ許サス

第四百十三條 舊時再犯ノ所刑ヲ受ケシ者、娼妓及ヒ妓樓
ノ主人タル者ハ囚徒ニ面接スルヲ禁ス但シ父母若クハ
囚徒ノ妻及ヒ其夫并ニ兄弟姉妹或ハ囚徒ノ後見人ハ前
例ノ者ト雖モ面接スルヲ許ス

第四百十四條 面接者ノ監獄ニ來ル時酩酊スル者ハ面接
ヲ許サス

第四百十五條 長官、看守及ヒ監護ハ假令ヒ面接ノ免狀ヲ
所持スル者ト雖モ之ガ注意ヲ怠ル可ラス又面接者ハ其

免狀ヲ門監ニ示シア而シテ後之ヲ看守ニ渡サシム然レモ
其免狀ノ疑ハシキ者アル時ハ之ヲ監長或ハ看守長ニ示
シ其檢査ヲ受ケシム而シテ疑フ可キ者ナキ時ハ入監スル
ヲ許ス

第四百十六條 囚徒ト面接者ノ間ニ危險ナル事情アルヲ
發見スル時ハ直ニ面接者ヲ監外ニ放テ再ヒ面接スルヲ
禁シ而シテ其旨ヲ委員會ニ報告シ其形迹ノ輕重ニ從
テ多少時間面接スルノ權ヲ剝奪スベシ

第四百十七條 面接者ハ危害物、飲食物及ヒ其他ノ物品ヲ
監獄署内ニ持參スルヲ禁ス但シ監長ノ許可アル時ハ此
限ニアラス

第四百十八條 囚徒ヲシテ署外ノ人ニ面接スルノ必要ナ

ルヲ認ルルキハ男囚ハ看守、女囚ハ監護尼ヲシテ其席ニ立
合ハシムベシ

第四百十九條 前條ノ規律ニ違背セル面接者ハ直ニ之カ
面接ヲ禁止ス故ニ面接者カ囚徒ノ脱監ヲ幽助シ或ハ之
ヲ容易ナラシメンコトヲ企圖シタル者アルキハ直ニ面接
者ヲ以テ檢事ニ引渡サシムベシ

第四百十條 面接ヲ許サレタルノ輕重罪未決囚ハ外人ト
通信スルヲ許スト雖モ書狀ハ監長ノ檢査ヲ經ルニアラ
ザレバ通信スルヲ得ス

監長若シ其書狀ヲ以テ送達スルノ害アルヲ判知スル時
ハ其書狀ヲ以テ委員會ニ送達ス但シ囚徒カ既ニ認書シ
タルヲ囚徒カ之ヲ送致スルヲ止メタル時ハ委員ニ渡ス

ヘカラズ

第五百十一條 囚徒若シ通信スルノ權理ヲ自毀シタル時
ハ委員會ニ於テ通信ノ權理ヲ剝奪スベシ

第五百十二條 第五百十條ハ一週間二通以上ノ書ヲ往復
スル能ハサル處ノ已決囚ニ適用スルモノトス但シ委員
會ノ特許ヲ得タル時ハ二通以上ノ書信ヲ往復スルヲ許
スコアルベシ

第五百十三條 署外ヨリ送致シタル書、包物及ビ其他ノ物
品ハ悉ク監長ノ詰所ニ持參セシメ監長自ラ之ヲ檢査シ
危険ヲ生スベキ患ナキヲ判知シタル時ハ之ヲ囚徒ニ渡
サシムベシ

第五百十四條 監長ニ在テ囚徒ノ認書ヲ差止メシム可シ

白耳鐵未已決兩監獄則

ト信スル時ハ之ヲ委員會ニ致サシム又至急ヲ要スル時
 ハ之ヲ月番委員ニ回送スルヲ例トス而シテ右委員ハ之
 ナ囚徒ニ送致セルト否トヲ判定スベシ
 又他ヨリ通信ヲ禁止セラレタル囚徒ニ宛テ送致シタル
 書ハ直ニ監長ヨリ始審裁判官ニ回送セシム
 第百五十五條 印紙ヲ貼付セサル時ハ領收セス但シ囚徒
 カ其印紙稅ヲ償フ時ハ此限ニ非アラス

(三) 所罰

第百五十六條 不柔順或ハ不規律ナル行爲或ハ犯則アル
 モノハ當時ノ形迹、罪ノ輕重トニ從ヒテ所罰ス
 第百五十七條 課罰ハ左ノ如シ
 工業、讀書、運動、商肆ノ物品ヲ購買スルヲ、面接、通信及ヒ

其他規則上許可セラレタル惠與物等ノ自由ヲ禁止ス
 ルヲ

九日以上麵包及水ノミヲ給與スルヲ
 寂寥分房ニ在テ驅役セシムルヲ

第百五十八條 右罰則ハ罪ノ輕重ニ依テ或ハ一項ヲ施ス
 一アリ或ハ數項ヲ一度ニ兼テ施ス一アリ故ニ監長ハ左
 項ノ程度ニ依テ之ヲ宣告スベシ
 若シ罪ヲ科スルニ重罰ヲ要スル時及ヒ三日以上分房ニ
 獨居セシム可キ性質ヲ有スル者ハ其旨ヲ委員會ニ報告
 ス但シ閉會ノ際ハ月番委員ニ報告シ而シテ所罰ノ方法及
 ヒ期限ヲ規定セシメ多クモ分房期一月以上ヲ超過セシ
 ムヘカラス犯囚ニ於ケルモ二月以上ヲ超過スヘカラス

第百五十九條 罰房ニ在ル囚徒ハ陣中寢具或ハ藁蒲團ヲ常備シ或ハ否ナル本製床ヲ通常ノ寢具ニ代用セシムベシ但シ醫師ノ意見ニ依テ他ノ寢具ヲ用ユル時ハ此限ニ非ラス

第百六十條 罰房ニ在ル囚徒ハ每朝醫師ヲシテ回診セシム

第百六十一條 囚徒三日以上麵包水ヲ給與スキ旨ヲ宣告セラレタル時ハ三日ノ内一日宛被罰囚ニ通常ノ食物規則ヲ施カシム總テ麵包ト水ヲ給與スル時ハ通常ノ食物規則ニ照シ麵包ノ半量ヲ給與ス

第百六十二條 監長ハ己レカ囚徒ヲ所罰シタル月日ヲ委員會ニ報告スベシ

第百六十三條 右ノ罰則ニ依テ處分スルキハ悉ク其旨意ト共ニ之レヲ帳簿ニ記入スベシ而シテ此簿冊ハ之ヲ委員會ニ提出シ尙ホ又之ヲ以テ上等行政官ノ巡回ノ時ニ於テ之ヲ供スベシ

(ホ) 賞

第百六十四條 委員會ノ會議ニ於テ賞與ニ合格スベキ囚徒アル時ハ典獄、看守長ノ意見ヲ聞タル後チ其旨ヲ司法大臣ニ上申シ而シテ後賞與スルヲ例トス

第二章 諸級ノ囚徒ニ關スル特別規則

(イ) 輕重罪未決囚

第百六十五條 監獄ノ秩序及ヒ安寧ニ平均セシメサル交通及ヒ實裕ナル規則上ノ制限ヲ以テ輕重罪未決囚ニ施

サシム

第六十六條 代言士及ヒ地方檢事ノ名簿ハ輕重罪未決囚ヲ入ル、處ノ房内ニ粘付スベシ

第六十七條 輕重罪未決囚ハ如何ナル事故アルニモセヨ委員會ノ特許ヲ得ルニ非サレバ五法^ヲ以上ノ金錢ヲ所有スルヲ許サス其他ノ金錢ハ直ニ典獄或ハ看守長ニ渡サシムルヲ要ス

(ロ) 已決囚

第六十八條 輕重罪監ノ已決囚徒ハ總テ中央監獄ノ已決囚ト同一則ヲ施サシム

就中商肆、面接、通信、利益金等ニ關スル諸規則ハ重罪中央監或ハ懲治中央監則ヲ適用スルモノトス故ニ委員會ハ

其時ノ形様ト地方トニ適當ナル規則ヲ設ケシム

第六十九條 委員會ノ反對ナル議定ヲナス時ハ前說ヲ取消シ已決囚ハ悉ク一法以上ノ金員ヲ自由スルヲ許サス其他ノ金員ハ監長或ハ看守長ニ渡シ一週内一法ノ割合ヲ以テ囚徒ニ給與スベシ

(ハ) 幼囚

第七十條 輕罪囚、未決囚或ハ重罪囚、已決囚ノ年齢十八歳未滿ノ幼囚ハ晝夜丁年囚ト隔絶シタル場所ニ置クヲ要ス

第七十一條 幼囚ヲ處置スルニ當リ委員會カ通常ノ監獄則ニ從ヒ之ヲ分房ニ置キ或ハ特別ノ監察法ヲ以テ之ヲ合同房ニ置クヲ適當ナリト判知スル時ハ監長或ハ看

守長ノ意見ヲ質シ而ル後其方法ヲ執行スベシ

第七十二條 民法第三百七十五條及ヒ次條ニ依ル幼囚
ハ（親族ノ懲戒）晝夜分房法ヲ施シ置キ特別ニ典獄或ハ看守長、教誨師及ヒ教師ノ監督ニ附セシムヘシ

第七十三條 前條ノ親族ハ幼囚ノ費用ヲ償ハシムベシ
ト雖モ千八百四十九年六月一日ノ法律第八條ニ依ル者
ハ此限ニアラス

第七十四條 家族法ノ懲治ニ附スル幼囚ノ姓名録ニ他
事ヲ記載スルヲ許サス

(三) 女囚徒

第七十五條 前條ニ記載スル所ノ諸規則ハ女囚ニモ亦
之ヲ適用スルモノトス

第七十六條 就中女囚ハ食事ノ業、麵包製造ノ業、庖厨ノ
業、衣服及ヒ寢具ノ裁縫並ニ洗濯ノ業ニ就役セシム

第七十七條 如何ナル事實アルモ女囚徒ハ悉ク宗教家
ノ厄或ハ俗人ノ監護婦ノ特別ナル監察ヲ受クベキモノ
トス

(ホ) 軍事囚

第七十八條 軍事犯ノ未己決兩囚徒ハ民事囚ト同一ナ
ル方法及ヒ規律ヲ施行ス

第七十九條 士官ト下士官ノ場所ヲ區別スルハ勿論兵
士ト全ク隔絶シテ混雜ヲ避ケシムベシ

第八十條 軍事囚ハ民事囚ト同一ノ方法ヲ施サバ
「ビストール」獄ニ入ルヲ許サス之レヲ詳言スレバ囚徒自

ラ其費用ヲ拂ハシム時ナリ

第八十一條 規律犯ノ囚徒ハ特別ノ場合ニ非サレハ輕重罪監ニ入ル、チ許サスト雖モ或ハ輕重罪監ニ入ル、ハ則チ特別ノ罰房或ハ兵營ノ監倉ニ送致スルマテノ間ニ限ル

規律犯ノ已決囚ハ食事、寢具及ヒ特別取扱規則ヲ施サシムベヘシ

(一) 負債囚

第八十二條 負債囚ハ可成遠隔シタル監房ヲ用ユ運動場モ亦特別ナル場所ヲ用ユ
特別ナル運動場ノ設ケナキ時ハ合同運動場ノ一部ニ於テ他ノ囚徒ト混雜セサル時間ヲ以テ運動ヲナサシムベ

シ

第八十三條 負債囚ハ互ニ交通スルヲ許サス凡テ委員會ノ規定シタル條令ヲ遵守スベシ

第八十四條 閉房時間ハ晝候ニ從ヒテ黄昏ノ時ヲ以テス然モ時トシハ夏ハ午後十時マテ冬ハ九時マテ閉房セザルコアルヘシ而シテ燈火費ハ總テ自辨タルベシ

第八十五條 負債囚ハ左ノ物品ヲ所有スルヲ許ス

一 己レノ庸工錢ヲ以テ購フ能ハサル高價ノ寢具及ヒ其他ノ物品ハ司法大臣ノ規定セラレタル工業ヨリ得タル攻錢ヲ以テ購求スルヲ許ス

二 監獄ノ食物ハ定價ヲ以テ購買スルヲ許ス

第八十六條 負債囚ノ疾病ニ罹ル時ハ其ノ請ヒニ依リ

他ノ囚徒ト同一ニ取扱スルヲ許ス故ニ監獄署外ノ醫師ノ來診ヲ許スト雖モ其診察料及ヒ樂料ヲ拂フヲ許サス

第百八十七條 一日一回及ヒ少ナクモ一週内四回ハ其兩親及ヒ事務ノ關係人ト面接スルヲ許ス但シ之レカ爲メ監獄ノ秩序及ヒ安寧ヲ亂スコアル時ハ委員會ヨリ其面接ヲ禁シ或ハ面接時間ヲ短縮スルコアルベシ

第百八十八條 第百三十四條ノ免狀ハ負債囚ノ面接者ニ與ヘシム就中面接者カ負債囚ノ房ニ來テ面接スル時ハ或ハ應接所ニ於テ面接スルヲ要スル時トス

第百八十九條 通信規則ハ署外ノ人ト自由ニ通信スルヲ得ル處ノ負債囚ニ適用スヘカラス但シ其印紙稅ヲ仕拂

スル時ハ此例ニアラス

第百九十條 前條ニ記載スル特別ノ條規ハ則チ例外ノモノニシテ其他ハ總テ他囚ニ施ス處ノ規則ト同一ナルベシ

(ト) 分房囚及ヒ獨居禁錮囚

第百九十一條 獨居禁錮房ハ他房ヨリ廣クシ、明リテ十分ニシ、空氣ノ流通ヲ十分ニシ而シテ適當ナル溫度ヲ受クヘク構造スルヲ要ス又此房ハ監獄大巡視ヲ以テ檢査セシ

メ而シテ司法大臣ニ其報告書ヲ差出サシムルヲ要ス

第百九十二條 分房ノ數ト囚員ト此例スル能ハサル時ニハ諸囚徒ヲ隔居スル能ハサル時ハ獨居禁錮法ヲ施ス處ノ特別ノ内則及ヒ等級ヲ改正スルヲ要ス

第九十三條 分房法ヲ施ス囚徒ハ互ニ面接シ且ツ交通スルヲ許サズ但シ第九十八條ノ場合ハ取除トス
甲ヨリ乙ノ所ニ通行スル時ハ他囚ト互ニ相面接交通セシメサルヲ要ス故ニ監長及ヒ委員ハ此通行ニ際シ各適當ノ方法ヲ施スベシ

第九十四條 分房囚ハ左ノ諸官吏ヨリ視察セラレタルヲ得ス

男女ノ性質ニ從テ毎日看守或ハ監護婦少ナクモ二日毎ニ監長、教誨師及ヒ醫師少ナクモ八日毎ニ月番委員ニ其他數々他ノ委員、慈善會社委員若クハ許可ヲ得タル面接者

第九十五條 前條諸官吏中男子カ女囚ヲ分房視察スル

時ハ常ニ監護婦ニ從伴セラレベシ

第九十六條 緊要ノ場合ニ在テハ囚徒ヲ監察吏ノ一人ニ任スルコトアルベシ但シ其囚徒ニ適當ナル監察務ヲ掌ラシムベシ

第九十七條 凡ソ囚徒ハ裁判官或ハ委員會、監察事務長、教誨師及ヒ醫師等ニ面接ノ請願書ヲ出スヲ許ス

第九十八條 或ハ取除ノ時ニ當テ分房法ヲ施ス囚徒ニ他囚ト交通スルコトヲ許スコトアル時ハ委員或ハ委員會長之レヲ許可スルモノトス又至急ノ時ニ際シ已決囚ト雖モ之ヲ許ササルヲ得サル時ハ月番委員其他輕重罪已決囚及ヒ軍事囚ノ如キハ大檢事、軍法會議檢事、民事裁判檢事及始官裁判官等ニ於テ之ヲ許ス

第一百九十九條 分房囚ニハ容易ナル就業ノ方法ヲ與ヘシム即チ衣服ノ裁縫諸器械ノ製作及ヒ其他負請人或ハ官府ノ攻業ニ就役セシム

第二百條 毎日一時間鮮潔ナル大氣ヲ呼吸セシムルニ足ル可キ運動ヲ行ナハシム又此時間ヲ以テ尤モ緊要ナルモノト判知スル時ハ醫師ニ在テ其時間ヲ延長ナラシムルトアルベシ

第二百一條 囚徒ノ學力アルモノハ自由ニ宗教上ノ書籍修身書及ヒ其他教育ニ緊要ナル書籍ヲ貸與スベシ

第二百二條 分房囚ハ教誨師ノ特別視察アリト雖モ亦諸囚徒ト同ク宗教稽古ノ堂ニ出席スルヲ許ス此時ニ當リ尙ホ分房ノ主義ニ基キテ諸囚徒ト隔居セシムベシ

第二百三條 此外分房囚ハ前條ノ一般規則及ヒ各監獄ノ特別規則ヲ遵守スベキモノトス

(チ) 死刑囚

第二百四條 死刑囚ハ其宣告ヲ受ケルヤ直ニ特別房ニ入レ嚴重ニ注意シ如何ナル囚徒タリト雖モ決テ往來セシムベカラズ

第二百五條 死刑囚ハ晝夜間斷ナク監察シテ危險ナル諸器械アルトハ悉ク沒收スベシ

第二百六條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル囚徒ト雖モ亦大氣十分ナル處ニ在テ運動スルヲ許スベシ其他其兩親及ヒ友人ニ面接ヲ請フ時ハ之ヲ許スト雖モ面接掛監察吏ヲシテ其場ニ監臨セシムベシ

第二百七條 該囚ハ少クモ一日一回監長醫師及ヒ教誨師ノ巡察ヲ受クベシ
 又タ教誨師トハ自由且ツ密ニ交通スルヲ許ス而ノ教誨師ト面接ノ時ハ時トシテ監察吏之レニ監臨セサルコトアルベシ

(未完)

第七章

工業

第二百八條 諸工業ヲ成ルヘク未己決兩監獄ニ設置スルモノトス又タ其諸工業ハ輕重罪未決囚ノ義務トナスベシ但シ委員或ハ司法大臣ノ許可セサル工業ハ營爲セシムヘカラス

第二百九條 前條ノ如クナルカ故ニ委員會ヨリ囚徒ヲ勉メテ有益上ノ工業ニ使役スルノ方法ヲ司法大臣ニ建言スルコトアルベシ

委員會ハ製作物ニ附属スル小工事ヲナス時及ヒ容易ニ速成スベキ見習工業ニ就カシメ或ハ物價ヲ低落セシムル時等ハ詳細ニ製造家或ハ工業負債請人監長或ハ看守長

白耳儀未己決兩監獄則

ニ報告スベシ

第二百十條 典獄看守及ヒ監護婦等ハ工業ヲ監督スルノ程度ニ從ヒ工業上ヨリ生シタル利益金ヲ各自ニ配分スルコトアルベシ

第二百十一條 器械組立法ヲ習知スル所ノ囚徒ハ其監獄内ニ於テ就役スルコトヲ得ベシ但シ之レニ適當ノ場所ヲ設ケ監獄ノ秩序規律及ヒ特別規則ニ適當スルヤ否ヲ計リテ就業セシムベシ

第二百十二條 典獄ハ囚徒ヲ給仕ニ使役ス但シ委員會ニ在テ給仕ノ員數ヲ定メタル時ハ此限ニ非ラス又給仕ニ使役スル囚徒ニハ司法大臣ノ制定シタル給料ヲ與ヘシム

第二百十三條 工業上ヨリ生シタル利益金ハ諸器械買入費等ヲ除クノ外其全額ヲ舉ケテ囚徒ニ配與スベシ其他已決囚ハ刑ノ輕重ニ比較シテ中央監獄規則中ノ工業規則利益金配當法ニ從フベシ

第二百十四條 前條ノ工業利益金ノ半額ハ右買入費等ノ差引計算後ニ於テ之ヲ貯金所ニ預置キ出獄ノ時ニ於テ之ヲ給與ス但シ監長ノ意見ニ依リ委員會カ其親族ノ救助或ハ緊要ナル需用費等ニ充ツルコトアルベシ

第二百十五條 各監獄ノ特別規則ヲ以テ工業時間ニ雇工錢及ヒ總テ工業上ニ關スル事項ヲ規定ス

第八編 道德及ヒ宗教

第一章 宗教ノ教訓及ヒ教誨師ノ職掌並ニ義務

第二百十六條 教誨師ハ各未己決兩監獄ニ置ク

第二百十七條 教誨師ハ日曜及祭日ニハ諸監獄ノ禮拜堂ニ於テ讀經スベシ

第二百十八條 教誨師ハ祭典執行ノ前後ニ於テ囚徒ニ對シ德道及ヒ宗教上ノ説教ヲナサシム但シ一週間内數々所説ヲ新タニセシムルコトアル可ト雖教誨師ト行政委員トニ在テ之ヲ有益ナリト認ムル場合ニ限ル

第二百十九條 前條ノ説教ニ關係ナキ教誨師ハ宗教ノ真理ヲ了知セサル處ノ囚徒及ヒ第一ノ「コンミンニヨン」ヲ未タ行ナハサル處ノ幼囚トニ向テ特別ナル教育ヲ施スコトヲ要ス

第二百二十條 宗教々育及ヒ其他ノ教育時間ハ教誨師監

長ト協議ノ上行政委員會ニ報告シ之カ決定ヲ乞フアルヘシ

第二百二十一條 又教誨師ト典獄トノ協議ニ依リ囚徒中ヨリ禮拜堂ノ事務ヲ習知スル所ノ者ヲ撰擇スルコトアルヘシ

第二百二十二條 教誨師ハ病室ヲ巡視シ或ハ病因被罰囚ノ傍ニ至リ之ニ説教シ其他教誨師ノ來訪ヲ請願スル處ノ囚徒ノ室ニ至テ説教スベシ

第二百二十三條 教誨師ハ時間ヲ定メ少クモ一週間二回ハ監獄内ヲ巡視スルコト例トスト雖モ第百九十四條ノ如キ分房巡視ニ特別ノ注意ヲ要スルコトアル時ハ毎日巡視スベシ

第二百二十四條 時トシテハ教誨師カ巡察事務ニ至急ヲ要スルコアル時ハ行政委員ト交通スルコアルベシ

第二百二十五條 病囚ノ死ニ瀕スル時ハ直ニ教誨師ヲ召スベシ故ニ又タ死亡出産アルキハ此旨ヲ教誨師ニ報告ス何トナレハ教誨師ハ此義務ヲ盡ス可モノナレバナリ

第二百二十六條 又教誨師ハ特別ノ方法ヲ以テ囚徒ヲシテ毎日或ハ一週内ノ某日ニ於テ讀經セシムルコアルベシ其他教誨師ヲシテ典獄或ハ看守長ト宗教事務ヲ議スルカ爲メ會議ヲ開キ其決定書ヲ委員會ニ呈出シ委員會之ヲ適當ナリト判定スル時ハ之レヲ司法大臣ニ建議セシムルコアルベシ

第二百二十七條 囚徒死亡シタル時ハ教誨師ヲ以テ「ミセ

ルレ」及ヒ「ドプロヒユンザ」ヲ讀經セシム又監獄諸官吏ノ死亡セル時モ亦同ク讀經セシムベシ

第二百二十八條 諸囚徒カ各種ノ宗教教育ノ席ニ列スル順序ハ各監獄ノ特別規則ヲ以テ之ヲ規定ス

男女囚ノ區別及ヒ各階級ノ囚徒ヲ充分良ク禮拜堂ニ於テ區分スルヲ要ス

典獄ハ宗教執行ノ日ニ當レバ充分之カ注意ヲ要ス而シテ己レノ命令ヲ其間ニ順奉セシムベキモノトス

第二百二十九條 國教ヲ奉セザル囚徒ナリト雖モ毎日監獄ニ於テ執行スル處ノ宗教ノ惠澤ヲ受ケシムベシ

第二章 學校 回閱文庫 高聲ノ讀書

第二百三十條 各未已決兩監獄ニハ學校ヲ設ケ且囚徒五

白耳備未已決兩監獄則

十名ニ至ルノ監獄ニ在テハ特別ニ教師ヲ聘シテ學課ヲ教授セシムヘシ

第二百三十一條 初等ノ教授ハ獨リ學力アルノミナラス其任ヲ尽スニ足ル可キ處ノ囚徒ヲ以テ之レニ充ツ又女囚區ニ於テハ監護婦及ヒ宗教尼ヲ以テ之ニ充ツ

第二百三十二條 教授ノ時間、教師ノ職制及ヒ生徒ノ義務等ハ總テ各監獄特別規則ヲ以テ規定ス

各監獄ノ教授法ハ成ル可ク中央監獄ノ學校教授法ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二百三十三條 學課ヲ改正スル時ハ典獄ノ建言ニ依テ委員會之ヲ規定ス

第二百三十四條 各監獄ニハ上等行政官ノ許可シタル回

閱文庫ヲ設ケ而テ囚徒ノ智識及ヒ品行方正ノ程度ヲ計リ以テ其書籍ヲ自由ニ回讀セシムベシ

所謂宗教上ノ書籍ハ教部官ノ許可シタル書籍ニ非サレバ備具スルヲ許サス

第二百三十五條 文庫ヲ二部ニ區別ス即チ一ヲ男囚部トナシ一ヲ女囚部トナス

文庫ノ監督及其維持法ハ總テ典獄、教誨師、或ハ教師ニ委託ス又其諸吏ハ各簿冊ヲ所持シテ囚徒姓名、書目、番号、貸與及ヒ返納ノ月日等ヲ記入スベシ

第二百三十六條 典獄ノ建言ニ依ツテ委員會ニ於テ書籍ヲ穢カシ或ハ破損シタル囚徒ヲ罰スル處ノ刑ヲ定ム

第二百三十七條 各己人ノ讀書外ニ禮拜堂或ハ他室ニ於

テ丁寧ニ講義スル時ハ高聲ヲ以テ讀書スルヲ許ス但シ此講義ハ典獄或ハ看守長或ハ教誨師或ハ教師或ハ看守或ハ之レカ爲メ特許ヲ得タル官吏或ハ女囚徒ノ監護婦等ヲ以テ之ガ講師ニ充ツ

第二百三十八條 男女ノ囚徒ニシテ特ニ教授ヲ受クルカ爲メ一所ニ集合スルヲ許サレタル時ハ女囚及ヒ男囚ノ席ヲ別ツテ各々教授スベシ故ニ同區中成ルヘク同級者ヲ同時ニ教授スルヲ善シトス

第二百三十九條 三ヶ月以上ノ所刑ヲ受タル各囚徒ハ其品行方正ノ程度ニ依リテ學課ヲ授クベシ但シ典獄或ハ看守長、教師及ヒ委員會員等ノ意見ヲ以テ教授スヘシ

第九編 食量規則及調理ノ事

第一章 健康囚ノ食物

第二百四十條 未己決兩監獄諸囚徒ノ食物ハ上等行政官ノ許可シタル一般ノ食量表ニ依テ規定ス但シ中央監獄ノ食量規則及ヒ分房法ニ從フ處ノ諸囚徒ノ食量ハ此限ニアラズ

第二百四十一條 「ダルトレー」「ガール」「デイギユウ」等ノ如キ皮膚病ニ罹リタル囚徒ハ健康囚ニ與ユル食物ト全ク區分スベシ

第二百四十二條 妊娠及乳母囚ハ醫師ノ意見ニ依リテ増食スルヲアルベシ

第二百四十三條 幼囚ノ食物ハ左ノ如キ割合ヲ以テスベシ

八歳ヨリ十二歳ノ幼者ハ常量ノ四分三

三歳ヨリ八歳ノ幼兒ハ常量ノ二分一

三歳以下ノ幼兒ハ常量四分一トス或ハ第八十條ノ取

扱ヲ以テスルコアルヘシ

第二百四十四條 負債因ト同ク輕重罪未決囚ハ私費ヲ以

テ署外ヨリ食物ヲ購入スルヲ許スコアルベシ此場合ニ

當テハ署内ノ食物ヲ受クルコトヲ禁ス但シ署外ヨリ買入

ル所ノ方法ヲ妨害スル者アル時ハ委員會ニ於テ此特遇

ヲ禁制ス

第二百四十五條 監長ハ毎日囚徒カ要スル處ノ麥酒葡萄

酒及ヒ其他ノ飲物ノ料量ヲ制限ス故ニ之レヲ過度ニ給

與シ或ハ之レカ爲メニ弊害ヲ醸出シタル時ハ監長之カ

責ニ任セザルヲ得ス

第二百四十六條 已決囚モ亦典獄ノ意見ニ依テ委員會ヨ

リ前條ノ特遇ヲ與フルコアリ

第二百四十七條 清水ヲ各囚徒ニ給與ス

第二百四十八條 烟草ハ第二百二十七條ノ制限法ヲ施スヘ

シ但シ歩行中喫烟スルハ總テ之ヲ禁ス

已決囚ハ一般ニ喫烟スルヲ禁ス但シ醫師ノ意見ニ依テ

委員會ヨリ特設セラレタル場所及ヒ分房已決囚ニ施ス

特待法ハ此限ニ非ラス

第二百四十九條 各監獄ノ特別規則ヲ以テ食物配付ノ順

序及ヒ喫食時間ヲ規定ス

第二百五十條 署外ヨリ買入ル所ノ飲食物ハ典獄ノ規定

シタル時間外ニ署内ニ輸送スルヲ禁ス又其飲食物ハ門側ニ置カシメ官吏自ラ之レヲ囚徒ニ授與スルヲ以テ例トナス

第二章 商肆（監内ニアリテ囚徒ニカシキ）購買（セシムル所ナリ）

第二百五十一條 監内ノ商肆ハ司法大臣ノ決議シタル請負規則ニ依リ之ヲ食物請負人ニ委任ス又此請負規則ヲ以テ商肆ノ販賣ヲ定メシム

委員會ノ建言ヲ以テ各條ニ記載スル物價ヲ定メ之ヲ囚徒ノ集合スル場所及ヒ各房ニ貼付ス

第二百五十二條 商肆ノ請負人ハ典獄ノ規定シタル時間内ニ毎朝來監シテ販賣品ヲ陳列スベシ

第二百五十三條 商肆請負人ハ來監前ニ當テ各區（男囚區 女囚區）

ノ看守一名ハ商肆ノ物品ヲ購買セント欲スル囚徒ヲ檢査スルカ爲メ其受持區及ヒ分房ヲ巡回ス

又タ囚徒カ購ハント欲スル物品ノ請求書及ヒ其代價ヲ巡回吏ニ納メ巡回吏又之ヲ請負人ニ下付ス

第二百五十四條 囚徒ニ請求品ヲ授與スルハ典獄ノ規定シタル時間内ニ於テス

第二百五十五條 各囚徒ニ配與スル分量ハ丁寧ニ注意ヲ要スヘシ而シテ其責任ハ重ニ之カ監察ヲ掌ル所ノ典獄ニ歸ス

第二百五十六條 商肆世話掛ノ看守ニ物品ノ請求ヲ豫約セザル所ノ囚徒ハ物品配付ノ時ニ當テ之カ請求ヲナスヲ許サス

第二百五十七條 右物品代價ハ必ス支拂フヲ要ス又商
肆請負人モ其支拂ニ對シ姑息ノ仁心ヲ懷キ囚徒ニ貸與
スルヲ禁ス

第三章 衣服及ヒ寢具 私費獄

第二百五十八條 輕重罪未決囚ハ第七十五條ノ(ハ)(ニ)(オ)(ス)
及ヒ(ヨ)ノ諸項ニ記載スル諸囚徒ト同ク監内取締及ヒ衛
生上ノ點ニ於テ委員會ヨリ別ニ禁制セサル時若クハ教
令法ヲ以テ別ニ裁判官ヨリ禁制ヲ被ラサル時ハ特別ノ
衣服ヲ用ユルヲ許ス
又右ノ罪囚ハ署外ヨリ私費ヲ以テ衣服ヲ購求スルヲ許
スヲアルベシ

第二百五十九條 禁獄或ハ禁錮三月以下ノ宣告ヲ受ケタ

ル民事軍事ノ兩已決囚ハ輕重罪未決囚ト同一ノ服制規
則ニ從フベシ

第二百六十條 三月以上ノ已決囚ハ中央監獄ニ於テ下付
スル處ノ獄衣ヲ着スルヲ許ス但シ委員會ニ於テ特許ヲ
得タル者ハ此限ニアラス

第二百六十一條 監長及看守長ハ醫師ノ意見ニ從テ健康
ノ適度ヲ計リ他ノ獄衣ヲ更着セシムベシ

第二百六十二條 已決囚ノ着服シタル衣類ハ其出監ノ時
ニ與ヘシメンカ爲メ或ハ洗濯シ或ハ薰蒸シ或ハ仕立直
シ或ハ檢印シテ之ヲ倉庫ニ貯藏ス
又輕重罪未決囚ノ衣服モ亦衛生及健康法ニ依リ獄服ヲ
着セシムルノ適當ナルヲ判知スル時ハ右條ニ依テ處置

スベシ

第二百六十三條 監長或ハ看守長ハ囚徒ノ着服シタル衣類ヲ保存スルノ責任アリ故ニ委員會ノ許可ヲ得ルニ非ザレハ汚衣ト雖モ妄ニ之ヲ賣却スルヲ許サズ

第二百六十四條 各階級諸囚徒ノ寢具ハ中央監獄ノ囚徒ト同一ナルベシ
釣床及普通ノ寢具ハ総テ囚徒ノ寢臥ヲ妨害セサル物品ヲ用ユルヲ要ス

第二百六十五條 監長或ハ看守長ハ倉庫ニ貯藏スル所ノ衣服及寢具等ノ目錄ヲ所持スベシ
但シ此目錄ハ三月ヲ一期トナシ一期ニ一回之ヲ検査シテ其寫書ヲ委員會ニ出スベシ

第二百六十六條 無用ノ物品タリト雖モ一期ノ末ニ當テ委員會ヨリ監長ノ許可ヲ得ルニ非レバ廢物トスルヲ許サズ

第二百六十七條 常ニ使用スル能サル物品及ビ無用ノ物品ハ悉ク賣却スベシ而シテ之ヲ賣却シタル旨ヲ毎年委員會ヨリ司法大臣ニ建言スルヲ例トス

第二百六十八條 輕重罪未決囚ハ負債囚及家族懲戒法ヲ施ス所ノ囚徒ト同ク委員會ノ許可ヲ得ルニ非レバ寢具及ヒ其他ノ物品ヲ署外ヨリ差入スルヲ禁ス

第二百六十九條 各未已決監獄中ニ「ピストル」ト稱スル獄舎ヲ設置ス而シテ此獄ハ委員會ノ許可ヲ得ザレバ輕重罪

白耳儀未已決監獄

未決囚及び已決囚ヲ入ルヲ許サス又之ヲ許サントスル
ルハ先ツ檢事ト協議スルヲ以テ例トス

第二百七十條 然レモ至急ニ「ビストル」獄ニ入レサルヲ得
サル時ハ監長或ハ看守長ハ確然タル許可ヲ得ルニ至ル
マデ假ニ入レシム而シテ其旨ヲ委員會ニ報告シ其許
可ヲ得ルヲ例トス

第二百七十一條 「ビストル」獄ニ入ルヲ許サレタル囚徒ハ
司法大臣ノ規定シタル物價表ニ依リ前金ヲ以テ諸雜費
ヲ贖フベシ

第二百七十二條 該「ビストル」獄ノ家屋貸與料ハ三月毎ニ
之ヲ國庫ニ上納スベシ

第二百七十三條 監長ハ右「ビストル」獄ニ常備スル處ノ諸

器具ノ損失ニ付之カ責任ヲ有ス然レモ天災ニシテ之ヲ
豫防スル能ハサル時ノ損失ニ至テハ此ノ例ヲ用ヒス

第四章 煖爐及ヒ燈火

第二百七十四條 温室及ヒ燈火ニ關スル方法ハ地方ノ形
勢ニ依リ州長ノ建言及ヒ委員會ノ意見ニ依テ上等行政
官之ヲ規定ス

第二百七十五條 合同寢房ハ夜間火ヲ點ス其他廊下、運動
場、巡邏道及ヒ監舎ノ安寧ヲ保護スル所ニハ「レメルペレ
」或ハ「ランナルヌ」ノ類ノ燈ヲ使用ス

第二百七十六條 煖爐ハ行政委員會ノ決定シタル時間内
ハ温身室、事務所其他之ヲ要スル場所ニ備具ス病室ハ醫
師ノ決定シタル時間内ハ之ヲ置ク

第二百七十七條 煖爐及ヒ燈火ヨリ危險ナル弊害ヲ發生スルノ虞ナキ時ハ各已人ニ之ヲ使用スルヲ許スト雖モ監長ノ意見ヲ以テ豫メ委員會ノ許可ヲ得ベシ而シテ之カ費用ハ總テ自辨トス又之カ費金ハ司法大臣ノ許可シタル物價表ヲ以テ之ヲ仕拂スベシ

第二百七十八條 煙筒ハ少クモ一年二回ハ掃除スルヲ例トス然レモ委員會若シテ監長カ數々掃除スルヲ以テ必用ナリト判知スルトハ屢之カ掃除ヲナスコアルベシ

第五章 各場所及ヒ物品ノ掃除及ヒ保存 衛生務 健康事務

第二百七十九條 家裏ノ雜事及ヒ衛生務ハ已決四及ヒ其他囚徒ニシテ之ヲ志願スル者ニ執ラシムベシ又此事務

ノ順序ハ監長之ヲ規定ス

第二百八十條 寢房、溫身室、廊下、櫛子其他囚徒及ヒ諸官吏ノ使用スベキ室内ハ毎日掃除シ一週内二回ハ洗滌スベキモノトス

板張ノ黒塗セシ者ハ多量ノ水ヲ以テ洗滌スルヲ禁ス凡テ砂或ハ水ニ潤シタル粗布ヲ以テ洗滌シ蓆或ハ許多ノ藁ヲ以テ敷カシムベシ

第二百八十一條 現時使用ニ供セル室内ノ窓戶ハ晝間開放スルヲ要ス然レモ之ヲ開放スルハ大氣ノ流通ノ不善ナルカ或ハ之レカ爲メ監内ノ規律及ヒ安寧ヲ妨害セザル時ニ限ル

第二百八十二條 分房ノ掃除ハ其房ニ起居スル處ノ囚徒

ニ執ラシム而メ其督責ハ看守之ニ任ス

第二百八十三條 内壁ハ一年二回春季ノ候チトシ石灰ヲ以テ洗滌ス尤モ衛生上ニ緊要ナリトモス時ハ屢々洗滌スルコトアルベシ

第二百八十四條 板壁門戸及ヒ窓ハ墻壁ノ下部ト同ク一「メイトル」ニ「サンタメイトル」ニ五ノ高サニ油ヲ塗ルベシ

(イソノキナラフ)

第二百八十五條 前條ノ掃除ハ總テ囚徒ニ執ラシムルヲ要ス

第二百八十六條 庖厨ニ使用スル所ノ溜水ハ成丈流通チ速ニ腐敗ノ虞ナカラシム其他糞溺塵埃ハ速ニ除去セシムルヲ要ス

第二百八十七條 監長ハ鍋釜ノ如キ食物ノ調理ニ用ユル處ノ諸器械ヲ鍍錫スヘキ物品ハ速ニ調査スベシ

第二百八十八條 囚徒ノ衣服及ヒ寢具ハ大氣ニ晒シムベシ故ニ季候ノ適度ニ從ヒ夜具ノ數ヲ増減スルカ爲メ常ニ之カ豫備ヲナスヲ緊要トナス

第二百八十九條 尿尿ノ掃除ハ囚徒ヲシテ之ヲ執ラシムベシ又毎朝盥漱シタル外男囚ハ一週二回髭剃シ理髪モ亦タ時トシテ屢々ナスコトアルベシ此他男女兩囚徒ニ洗足セシメ或ハ入湯セシムベシ

第二百九十條 囚徒ハ毎週衣服ヲ改メ又敷布ハ毎月更換セシムベシ

第二百九十一條 糞滯園及ヒ「トクヘルサン」卓子ハ典獄ノ

建言ニ依リ委員會其緊要ナルヲ判知スル毎ニ更換セシム
 但シ其數量ハ一年四十「キログラム」ヲ超過スヘカラ
 ズ
 其藁ヲ更換セシムル時ハ「ウバルシウ」或ハ「グステシ」ノ如
 キ海草ヲ以テ代用スルヲ許ス但シ之ヲ以テ特ニ分房
 ノ寢具トナスベシ
 第二百九十二條 衣服類及敷布等ヲ甲乙丙ノ使用スル物
 品ト更換スルコトアルモ充分良ク洗濯シタル後ニ非サレ
 バ之ヲ許サズ
 第二百九十三條 何レノ時季ヲ論セス夜具類ハ凡テ大氣
 ニ晒スベシ
 第二百九十四條 衣服及ヒ寢具ノ洗濯ハ洗濯場ニ於テ典

獄或ハ看守長ノ命シタル女囚ニ行ナハシム但シ監護婦
 ノ建言ニ依リテ命スル者トス
 第二百九十五條 病室、病囚或ハ傳染病ニ用ヒタル衣服及
 寢具類ハ他ノ洗濯物ト全ク區別シテ洗濯セシムルノミ
 ナラス倉庫ニ貯藏スル時ハ其部類ヲ區別スベシ
 第二百九十六條 破損シタル衣服及ヒ寢具類ハ速ニ修理
 スベシ其他尙ホ現時ニ於テ用ヒサル物品ト雖モ破損シ
 タル時ハ速ニ修理スベシ
 第二百九十七條 監察吏員ハ洗濯ニ注意シ假令ヒ洗濯ヲ
 終リタル物品ト雖モ倉庫ニ貯藏スル時ハ充分之ヲ乾シ
 タル後ニ非サレバ決シテ貯藏セシムベカラズ
 第二百九十八條 倉庫ニアル物品ハ夏季ノ前後ニ於テ大

氣ニ乾カシ鞭條ヲ以テ物質中ニ含蓄セル微塵ヲ脱去セシム而シテ可成屢々スルヲ善トス

「マテテラ」卓子ハ管理シテ之ヲ屢々鞭打スベシ

第二百九十九條 各日曜日朝餐後及ヒ神事執行前ニ囚徒ハ典獄ノ議長トナル衛生會ニ出席ス

第十編 醫師及ヒ病室

第三百條 醫師ハ委員會ノ協議ヲ經テ規定シタル時間ヲ以テ病囚及ヒ監獄出入ノ諸囚徒ヲ診察センカ爲メ毎朝來監ス其他又監長ヨリ來診ヲ請フアル毎ニ來診スベキモノトス

第三百一條 看守及ヒ監護婦ハ疾病ニ罹レル處ノ囚徒ト及ヒ病囚トナス處ノ者ヲ醫師ノ目前ニ誘導スベシ

第三百二條 醫師ハ二日毎ニ獨居禁錮囚罰房囚ヲ診察シ其健康ニ妨害アリト認ムルキハ各之ニ適當ナル方法ヲ施サシムベシ

第三百三條 醫師ハ每週監獄ノ各部ヲ巡回シ衛生法ヲ施スヤ否ヲ検査シ而シテ適當ナル衛生法ヲ典獄及ヒ委員會ニ建言スベシ

第三百四條 典獄及醫師ハ於テ衛生法ヲ施スヤ否ヲ検査スル毎ニ互ニ協議ヲ遂ケ貯藏ノ物品中廢物或ハ破損物アリテ之レカ爲メ他ノ物質ヲ毀損スルコトアルヲ検査スベシ

第三百五條 病者取扱ニ關スル事務ヲ規定シテ其病者ハ分房或ハ合同病室ニ於テ施療スヘキ否ヤヲ決定スベシ

第三百六條 醫師ハ監獄ノ衛生囚徒ノ健康ニ關スル事項

ヲ記載スル處ノ日記録ヲ所持ス故ニ緊要ナル時ハ此日記録ヲ委員會及ヒ衛生事務大監督ニ送致スヘシ

第三百七條 疾病アル者ト見止メタル囚徒ハ直ニ病室ニ

誘引ス但シ軍事病院ニ送致スル軍事囚ハ此ノ限ニアラスト雖モ監獄所在ノ都府ニ病院ヲ設置スル時タルベシ

第三百八條 精神錯亂シタル囚徒ハ醫師ノ報告ニ依リ典

獄或ハ看守ハ大檢事ノ檢査ヲ經タル後之ヲ瘋癲病院ニ送致スベシ

第三百九條 其瘋癲患者ヲ監獄ニ送送スル時ニ當レバ檢

事其親族或ハ邑ノ官吏ト協議シ之ヲ入レシムル房室ヲ規定スベシ此方法ヲ施ス處ノ瘋癲人ハ常時ノ瘋癲人ト

同ク其給與費ヲ拂ハシムベシ

第三百十條 重症或ハ傳染病者ナル時ハ監長或ハ看守長

ハ醫師ヲシテ其旨ヲ人名簿ニ記載セシメ直ニ之レヲ檢事ニ送達スベシ

右ニ關シテ緊要ナル時ニ臨ミテハ檻車ヲ以テ民立病院

ニ之ヲ送致シ又若シ其方法ヲ施ス能ハサル時ハ醫師ノ命令ニ依テ獄内ノ病室或ハ分房或ハ健康囚ノ起居スル

處ヲ隔離シタル房内ニ之ヲ入レシメテ特別ノ取扱ヲ施サシムベシ

第三百十一條 皮膚病ニ罹ル囚徒ハ隔絶シタル房室ニ於

テ施療スベシ

第三百十二條 囚徒ニシテ病者ノ看護ヲ請願スル者數多

ナル時ハ委員會其旨ヲ司法大臣ニ建言シ而其職務及其義務ハ特別規則ニ由テ規定スヘシ

第三百十三條 女囚ノ病室ニ關スル事務ハ其女囚部ニ屬スル處ノ監護婦ニ之ヲ勤務セシムヘシ

第三百十四條 中央監獄病囚ノ衣服、寢具、食物及ヒ規律ニ關スル規則ヲ成丈未己決兩監獄ニ適用スベシ

第三百十五條 醫藥ハ藥劑官ニ命シテ調合セシムベシ

軍事藥劑處ノ設ケナキ時ハ地方ノ藥劑處ニ委嘱シテ之ヲ調合セシムヘシ但シ州長ト契約ヲナシ且衛生事務大監督ノ意見ヲ以テ司法大臣ノ許可シタル方法ニ依ル者トス

第三百十六條 該監獄ニ在テ適當ナル病室ヲ設置スル能

ハサル時ハ前條ノ重病者及女囚ノ病者ヲ民立病院ニ送致シテ特別ノ取扱ヲナスベシ但シ共和六年フアンデミユール月ノ法律及ヒ千八百十年一月八日ノ勅令ニ從テ處置スベキモノトス

民立病院ニ送致スル時ハ委員會之ヲ命スルモ左ノ官吏ノ許可シタル後ニ非ラザレハ能ハス即チ輕罪未決囚ハ始審裁判官或ハ軍法會議ノ檢事又重罪未決囚或ハ召呼ヲ受ケタル囚徒ハ大檢事或ハ軍法會議大檢事ニ於テシ又已決囚或ハ負債囚ハ州長ニ於テス又而シテ此場合ニ在テハ典獄ハ少クモ其責任ヲ有スルノ權ナシ

第十一編 護送及ヒ放免

第三百十七條 典獄或ハ看守長ハ晝夜ヲ論セス護送ヲ委

任シタル看守ニ出監スル囚徒ニ關スル書類裁判宣告ノ
寫書及ヒ護送ノ決定書等ヲ遲延ナク引渡スベシ

第三百十八條 護送狀ハ常ニ囚徒ニ關係スル所ノ諸官吏
ノ検査ニ附スベシ

第三百十九條 囚徒ハ護送前ニ當テ醫師ノ診察ヲ受クベ
シ但シ其診察ハ出發ノ際ニ於テシ或ハ其前日ニ受クル
ヲ要ス

囚徒若シ重病ナルカ或ハ皮膚病ナルカ或ハ傳染病若ク
ハ護送ノ爲メ重病トナルノ虞アルカ或ハ不都合ナル事
故アル時ハ委員會若ハ典獄其疾病ノ全治スルヲ侍テ護
送ヲナサシムベシ
女囚ニシテ乳兒アリ或ハ妊娠セル者ハ前項ト同一ナル

處分ナリト雖モ醫師ニ在テ護送スルモ妨ケナシト診斷
スル者ハ護送スベシ

第三百二十條 囚徒ノ健康上憂フ可キ處ナシト雖モ恐レ
アル時ハ醫師其旨ヲ報告スベシ但シ送致處ノ醫師ニ其
報告書ヲ送附シテ護送ニ注意ヲ加ヘシメ而シテ旅行ヲ止
メ之レカ取捨ヲナスベシ

第三百二十一條 典獄ノ意見ニ依リ護送ヲ止メタル時ハ
直ニ其旨ヲ大檢事、檢事、軍法會議、大檢事及ヒ同檢事ニ報
告スベシ

第三百二十二條 護送セラル可キ囚徒カ午前ニ出發スル
キハ之ニ給スル處ノ麵包ハ常量ノ二倍ヲ以テス
又タ囚徒護送セラル、キ之ニ附屬品ヲ渡サシムベシ若

シ衣服ニ不足ヲ生シタル時ハ官費ヲ以テ之ヲ給與ス而
ノ囚徒カ之ヲ受領スル時ハ二通ノ領収書ヲ認シメ之ヲ
其書類綴込ニ編入セシムヘシ

第三百二十三條 典獄或ハ看守長ハ行政官ヨリ囚徒カ受
領シタル衣服類ヲ記載スル簿冊ヲ護送官吏ニ渡サシム
又護送官吏ハ之ヲ二通ノ書類ニ記載シテ其一通ヲ送致
先ノ典獄ニ渡スヲ例トス

第三百二十四條 典獄等ハ贖罪シタル囚徒若ハ種々ノ事
情アリテ禁獄ヲ解カレタル囚徒ハ直ニ放免ヲ命ス而シテ
出獄ノ囚徒ハ他囚徒ト交通スルヲ許サス

第三百二十五條 出獄ノ囚徒ハ第三百十九條ニ掲ル所ノ
者ト同一ノ取扱ヲ爲ベシ放免囚トナルヲ拒識スル者ハ

此限リニアラス

第三百二十六條 己ニ放免セラレシト雖モ或ハ事故アル
カ爲メ延引スル時ハ典獄ハ第三百二十一條ノ諸官吏ニ
報告シ又疾病ノ爲メ延引スル時ハ其旨ヲ放免囚ノ親族
ニ報道スベシ又貧究ニシテ出獄後自活ノ目途ナキ者ハ
其旨ヲ救仁本住地ノ行政官ニ報告スベシ
典獄疾病ノ爲メニ消費シタル金員ハ禁錮費外ニ登錄シ
之ヲ委員會ヨリ州長ニ送附セシムルヲ例トナス

第三百二十七條 放免囚疾病ニ罹ルハ醫師ノ意見ヲ以テ
出獄セシムル時ハ其監獄ニ接近ナル民立病院或ハ陸軍
病院ニ送致スベシ但シ其囚徒ノ階級ニ從ヒテ之レカ取
扱ヲナスベシ

第三百二十八條 放免囚ニシテ其ノ郷關ニ歸省スルノ旅
金ヲ貯蓄スル能ハサルハ監長之レニ粗衣及ヒ麵包ヲ與
ヘ而ノ貧者旅行ニ給與スル十五撒ノ金及ヒ旅行券ヲ與
フベシ

第三百二十九條 放免囚十八歳未滿ナル時ハ監長ハ豫メ
出獄前ニ其兩親或ハ後見人ニ出獄日及ヒ時間ヲ告知ス
ベシ

第三百三十條 未已決兩監獄ニ於テ贖罪スベキ懲治已決
囚或重罪已決囚放免ノ時ハ中央監獄ノ已決囚ヲ放免ス
ルノ規則ニ遵フベシ又其囚徒ハ千八百四十八年十二月
十四日ノ國王ノ決議ヲ以テ規定シタル保護ノ惠澤ヲ受
ルヲ許ス

第十二編 出產及死亡

第三百三十一條 女囚カ出產シタル時ハ民法第五十五條
ニ依リ典獄ヨリ其旨ヲ身上証書掛ノ官吏ニ三日以内ニ
其旨ヲ通報スベシ

第三百三十二條 委員會ハ其出產シタル孩兒ヲ連ニ其親
族或ハ育兒院ニ送致スルノ方法ヲナスベシ若シ出產囚
ノ禁獄期短近ナル時或ハ他ノ元囚ニ依リ放免時ニテ養
育スル時ハ此限ニアラス

第三百三十三條 民法第八十條及ヒ第八十四條ニ依リ典
獄ハ監獄ニ於テ死亡シタル者ヲ身上証書掛官ニ報ズ若
シ其死亡者輕罪未決囚ナル時ハ裁判官ニ其旨ヲ報告ス
ベシ

第三百三十四條 死体ハ通常ノ麻布ニ包ミテ之ヲ棺ニ入
レシムベシ

死骸ハ普通埋葬地ニ埋葬ス而シテ其費用ハ一切死亡囚ノ
邑廳ニ負擔セシムベキモノトス

第三百三十五條 囚徒カ死亡ノ旨ヲ本囚故地ノ邑長並ニ
其兩親或ハ親族ニ報告スベキモノトス

右ト同時ニ典獄ハ死亡囚ノ諸物品及書類ヲ証明シ本囚
ノ遺族ニ其旨ヲ報告スベシ

第三百三十六條 死亡囚若シ外國人ナル時ハ州長ヲ以テ
其旨ヲ上等行政官ニ報告スベキモノトス

第十三編 給養 家室及ヒ動産物ノ保存及ヒ修理
年報 上等監督 特別規則

第三百三十七條 未已決兩監獄囚徒ノ給養費ハ其監獄ノ
費用ト囚徒ノ員數トニ從ヒテ司法官或ハ請負法ヲ以テ

之ヲ贖ナハシム
甲乙ノ監獄規則ハ請負規則ヲ証明シ其決定スル處ノ司
法大臣ニ在テ之ヲ撰定スヘシ

第三百三十八條 司法大臣ノ指名シタル一名若クハ數名
ノ建築師ハ毎年未已決兩監獄ヲ視察シテ家屋動産物ノ

概略或ハ修繕改造等總テ建築ニ關スル事件ヲ委員會及
ヒ獄官長ニ証明告知スヘシ

委員會ニ於テ緊要ナリト認定シタル工事ノ雛形及見積
書ハ州長ヨリ司法大臣ニ申呈スベキモノトス

第三百三十九條 巡視ノ順序及時期並ニ建築師、視察等ハ

司法大臣之ヲ規定ス

第三百四十條 修繕等ノ工事ヲ至急ニ要スル時ハ委員會
典獄ト協議シテ其修繕ト同時ニ司法大臣ノ許可ヲ請フ
ベシ

第三百四十一條 委員會及典獄ハ建築師或ハ其代理者ト
協議シ請負工事規則ヲ執行スルヲ注意スベシ

第三百四十二條 委員會ノ盡スルキ監察ニ關セシテ郡
長及ヒ郡ノ官吏等ハ各監獄ヲ順序ニ巡察シ而テ其結果
ヲ司法大臣ニ報告スルヲ務ムベシ

第三百四十三條 委員會ハ毎年三月前十五日間ニ州長ヲ
シテ左項ノ報告書ヲ司法大臣ニ申呈スベシ
一項 一ケ年度ノ監獄形况ニ關スル報告書

二項 前年度ノ出納費ノ決算但シ左ノ二簿冊ヲ添テ申
呈スベシ

(甲)囚徒ニ緊要ナル衣服、寝具及ヒ食物ノ記錄

(乙)不用物或ハ使用ニ堪ヘサル物品及ヒ其物品ニ代用ス
ル物品等ノ記錄

第三百四十四條 未己決兩監獄ニ用ユル一般規則ノ外ニ
特別規則ヲ以テ監獄ノ秩序、規律、衛生、取締及ヒ監獄ニ要
スル細事等ヲ規定スベシ

委員會ニ在テ草案シ州長ノ檢閲シタル特別規則ハ之ヲ
執行スル前ニ當テ豫メ司法大臣ノ許可ヲ得ベシ
總則

第三百四十五條 監獄ノ行政上ニ關スル決定書、教令書、及

ヒ諸規則ニシテ該一般規則ノ方法ニ反對セサル者ハ未
 己決兩監獄諸官吏ヲ誘導スル處ノ者ナリ
 第三百四十六條 該未己決兩監獄一般規則及各監獄ノ特
 別規則ニ明記セザル事故アル時ハ委員會典獄ト協議シ
 州長ヲ經テ其方ヲ司法大臣ニ申呈シ其許可ヲ乞フベシ

白耳儀未己決兩監獄則終

○白國囚徒工業規則

第一條 典獄ノ注意ヲ以テ可及的健康ニ適スル工業ヲ各
 輕罪監及違警罪監ニ設置スベシ但シ諸囚徒ノ義務トノ
 執ルベキ處ノ工業ハ違警罪囚、未決囚、重罪未決囚、國事犯
 囚及ヒ負債囚等ニハ成ル丈寛大ナラシムヘシ
 第二條 典獄ノ建言ニ依ル行政務ハ左ノ如シ
 一 典獄ノ意見ニ依テ禁錮囚ノ工業ヲ免セシムルコト
 二 囚徒中工業ヲ巧ミニ營爲スルモノアリト雖モ之ヲ
 免スル時ハ蓋シ其工業場ノ設置ナキ時カ或ハ安寧法、
 秩序、特別規則等ニ合格スル能ハサル時ナルベシ此工
 業囚ニ給與スル工錢ハ普通職工ノ得ル所ノ下價ニ基

ツキテ之ヲ定ムル者ナシ且ツ第七條ノ方法ヲ適用ス
ヘシ

第三條 典獄ハ諸囚徒ニ家裏ノ工業ヲ執爲セシムヘシト
雖モ人員ノ多寡ニ從ヒ各囚徒ノ希望スル所ニ依テ之レ
ガ業程ヲ定ムベシ且ツ其給養費ハ司法大臣ノ決議書ニ
依テ施行スルモノトス

第四條 分房監ニ於テ入寢時間マテ工業ヲ執ルカ爲ニ費
用スル所ノ燈火費ハ固ヨリ官費タルベシト雖モ此時間
外ノ燈火費ハ則チ私費タルベシ

第五條 分房監獄或ハ分房ニアラザル輕罪監及ヒ違警罪
監ニ於テ工業ヲ執ル所ノ囚徒ハ行政所分ニ依テ典獄ノ
指揮ヲ受クベシ

第六條 囚徒ニ給與スル給養費ハ他ノ製造家ガ普通職工
ニ支拂ヒタル下價ノ一分ヲ支給スルコアルベク或ハ毎
日支給スルイモアルベシ而シテ其價格ハ可及的商業上ノ
定價ニ準シテ之ヲ定ムベキモノトス

第七條 囚徒ニ支給スル工錢ノ定價ヲ左ノ如ク區別ス(日
給或ハ工業ノ價)

- イ 違警罪囚ハ賞譽ノ名義ヲ以テ全價十分ノ五ヲ受ク
ルコトヲ得ベシ
- ロ 運車ノ刑ヲ受ケタル軍事囚ト齊シク徒刑場驅役囚
ハ十分ノ四ヲ受クルコトヲ得ベシ
- ハ 徒刑囚ハ十分ノ三トス又違警罪囚、未決囚、重罪未決
囚、禁錮囚及ヒ工業ヲサ、ル可ラザルノ義務ナキモ

己ノ所好ニ依リ隨意ニ工業ヲ營爲スルヲ得ベキ囚徒等ハ固ヨリ監獄ニ於テ負擔スベキ眞ノ給養ナルガ故ニ工業ヨリ生シタル金額十分ノ二ヲ引去リタル殘金ヲ受クルコトヲ得ベシ

各囚徒ニ配與シタル殘額ハ左ノ如キ使用費ニ充ツルモノトス

ニ 局費及ヒ通信費ノ如キ細費

ホ 包物、運送、供給物(糸、紐、針、松、香、蠟等ナリ)及ヒ器械ノ細費但シ該費ト供給物トハ製造家或ハ職工ニ要スル所ノモノニ拂ヒ或ハ用ユベカラス

此場合ニ當テハ製造物ト職工トノ價ヲ定ムベシ

ヘ 家裏ノ工業ニ使役シタル囚徒ノ給養費

ト 後條ニ於テ典獄及ヒ政府トニ於テ規定シタル所ノ

費額(第十四第十五條)

第八條 囚徒ガ尤モ注意ヲ要セザル可ラサルモノハ物品ヲ腐敗セシメサルコト或ハ家室ヲ毀損セサルコト或ハ動産物ヲ粗暴ニ取扱ハサルコト等ナリ此注意ハ工業費ヲ給與セラル、ノ時ニ於テ甚シキ大關係ヲ生スルコトアルヘシ

第九條 囚徒ノ階級ト及ヒ前條ノ注意トニ從ヒテ賞譽ヲ與フベシ但シ甲ハ小使錢トシテ毎月給與シ乙ハ貯蓄金トシテ退獄ノ時ニ給與スベシ

第十條 囚徒死亡ノ時ニ於テハ其貯蓄金、預金、寶物及ヒ懷中時計ノ如キ物品ハ親戚其他ノ之ヲ受理スベキ權理アル者ニ滿二ケ年中ニ渡サシム但シ其滿期二ケ年ヲ經テ

之ヲ授與スベキ者ナキハ記録行政官吏ト地方官ト立
 合ノ上ヲ以テ其諸物品ヲ賣却スベシ
 賣却シタル物品ヨリ生シタル處ノ金額ト及ヒ平生ノ貯
 蓄金トハ金子預所ニ之ヲ納メシムヘシ
 罰金ト裁判費トヲ國庫ニ支拂ヒタル後ニ在ラサレハ其
 金子ヲ受クベキ權理アル者ノ請求ニ應スルヲ得ス
 若シ外國人ニシテ右等ノ情實アル者ハ放免時ニ至マテ
 其罰金ト裁判費トヲ支拂フベカラス
 第十一條 典獄及ヒ行政官トニ於テ給養費ヲ支拂フ時ハ
 刑法常典第十五條及ヒ第二十七條ニ記載スル所ノ定則
 ニ依リ囚徒若クハ親族ニ於テ之ヲ要スベキ理由アレハ
 貯蓄金ノ半額ヲ下渡サシムヘシ

左ニ揚グル條項ハ刑法第十五條ト第二十七條トヲ拔萃
 シタルモノナリ

第十五條第二三四項 囚徒ガ勞役ニ依テ得タル賃銀ノ
 一分ハ之ヲ官ニ貯蓄シ滿期出獄ノ時若クハ出獄後給
 與ノ定期ニ至リテ之ヲ給付スベシ
 監役囚ハ其賃錢十分ノ四ヲ給シ懲役囚ハ其十分ノ三
 ヲ給シ余ハ皆ナ官ニ收納ス官ヨリ右貯蓄金ノ半額ヲ
 以テ其受役中ノ用ニ供ス可ク若クハ其親族ニ於テ要
 スヘキノ事故アレバ之ニ給スヘシ
 第二十七條 凡ソ罪囚ガ懲治監中ニ在テ執ル所ノ工業
 ヲ得タル賃錢ノ一分ハ其囚徒ヲノ幾許ノ便ヲ得セ
 シムル爲メニ直チニ之ヲ給與シ他ノ一分ハ豫メ官ニ

貯へ置キ以テ他日出獄ノ時ニ際シテ之ヲ給與シ生業ノ資本トセシム蓋シ獄中ニ在テ直チニ給與セラル、ヲ得ルハ其矯正歸善ノ徵候アル者ニ非ザレバ決テ許可セス此給與スヘキ資産ノ額ハ全數十分ノ五ニ超過ス可ラズ余ハ皆ナ官ニ沒收ス可シ

囚人ノ親族若シ必需ノ事故アレバ營テ官ニ貯フル所ノ半額ヲ以テ之ニ付與スルヲ得ベシ

第十二條 典獄ハ左ノ數件ヲ擔任ス

- 一 工業執行ノ日記
- 二 金錢出納ノ日記
- 三 家裏ノ工業ニ使役シタル囚徒ニ下渡スベキ決算表
- 四 工業上ノ勉勵ニ依テ囚徒カ得タル所ノ賞譽ノ月簿

此帳簿ト日記ハ行政官並ニ行政議會ノ監査ヲ乞ベシ

第十三條 典獄ハ毎年一般ノ決算表ヲ中央政府ニ出スヘシ

該決算表ハ三月一日以前ニ於テ司法省ニ回送スルモノトス

此決算表ニハ一般ノ工作物ノ小賣ヲナシタルト及第七條ニ記載スル諸入費ノ豫備金トヲ記入スヘシ

第十四條 輕罪監及ヒ違警罪監ノ典獄ハ大藏省ニ對スル

貸借金返濟ノ責任アリ此時ニ當テハ製造家ト共ニ其事務ヲ行ナハシム是故ニ豫メ純益金ヨリ三百「フラン」ノ金額ヲ引キ去ルベシ

第十五條 此純益金ノ餘額ハ典獄ト大藏省トニ於テ之ヲ

配分ス

賞與トシテ典獄ニ與ヘタル金員中ニ引去金三百「フラン」ヲ包有スル時ハ二千「フラン」ヲ超過ス可カラズ然レトモ此等ノ賞與ヲ受ル典獄ハアンヘル州「ブルクゼール州」ブリウシト州「ガン州」モン州「リエーシウ州」ナミウール州ノ輕罪監ニ限ルモノニシテ此他ニ於テハ千「フラン」ヲ超越ス可カラズ

政府ニ配納シタル金額或ハ監獄ニ於テ規定シタル最多額ノ歳余ハ毎年典獄ヨリ國立銀行ニ之ヲ預ケシム而シテ之ヲ預クルニ監獄行政部ノ金額ナル名義ヲ以テスベシ

例規ニ依テ認メタル証書ヲ附シタル銀行預金ノ請取書

ヲ以テ明瞭ナル決算ヲナサシムヘシ

第十六條 典獄外ノ官吏ハ工業ヨリ生シタル純益金ノ配分ヲ得ベカラズ

第十七條 若シ年末ニ執行シタル工業ノ純益金ヲシテ第七條ニ記載スル所ノ金額ヲ仕拂フヲ得ス且ツ家裏ノ工業ニ使役シタル囚徒ノ給養費ニ不足ヲ生スル時ハ政府ヨリ其欠乏金ノ支出ヲ請願スベシ

第十八條 政府並ニ下等監獄ニ屬スル織物品及ヒ家具ハ無代價ニテ典獄之ヲ私用スルヲ得ベシト雖ヒ之ヲ保護スベキノ契約ヲ以テスベシ
鍛冶細工場及ヒ指物細工場ノ細器ハ監署ノ何人ヲ論セズ私用スルヲ得ベシト雖ヒ家屋及ヒ動産物ノ破損ヲ特

別ニ修繕スル時ニ限ル而メ其諸器械ハ全ク監署ノ所有物ナレバ之ヲ新造スル時ニ於テハ固ヨリ署費ヲ以テ仕拂フベキモノトス

細工場ノ細器ニ齊シキ織物及ヒ家具ハ總テ動產物明細録ニ記入スベシ即チ第一項ニ記載スル物品ハ(イ)ノ雛形ニ依テ認め又チ第二項ノ物品ハ(ロ)ノ雛形ニ依テ認めメシムベシ

此他ノ諸物ハ工業年報ニ屬スル量ト及ヒ價格トヲ細密ニ帳簿ニ記入スベシ

第十九條 中央監獄ノ指揮スベキモノヲ輕罪監及ヒ違警罪監ニ委任シテ工業ヲ行ナハシムル時ハ該二監ノ給養費ヲ以テ決算スヘシ

下等監獄ノ典獄ノ要事ニ於テ決算スベキ特別簿ニ其決算ヲ記入スベシ

該簿ノ金額ハ第七條ニ記載スルカ如キ方法ニ依テ之ヲ取扱フベシ

第二十條 一般規則ニ於テハ下等監獄ノ工業ハ製造家ノ爲メニ設置スルモノトス又チ行政所分チ以テ品物ヲ製造ナスベキ特別ノ場合ニ於テハ典獄ノ爲メ囚徒ニ命シテ工業ヲ營爲セシムベシト雖モ普通職工ニ支拂フベキ給料ヲ囚徒ニ給與スルノ約定ヲ以テスベシ

第二十一條 特別規則ハ工業ノ構成ニ係ル細目ヲ定メ前條諸規則ト相齟齬セザルヤウ取斗フベキモノトス

千八百五十五年十一月六日

レナボルド

司法大臣 シウレトバラ

該工業規則ハ司法大臣ニ取捨スルノ權ヲ許シタレバ司法大臣ノ改正シタル規則ニ記録セルナリ

譯者曰ク右ニ掲ケル所ノ諸規則ハ現今白國諸監獄ニ於テ實行スル所ノ者ニ係リ決シテ古人已ニ用ユルノ勢ヲニアラザルナリ今ヤ我邦監獄幼稚ノ時ニ際シ制規ノ屢々變更スルヲ見テ他國ニ在テモ亦タ我邦ノ如ク制規ノ云ハザルヲ得ザルナリ讀者幸ニ此條令頒布ノ年月舊時ニ在ルヲ認メテ現今施行ノ制規ニ非ラズトナス勿レ

○ブリウシウ府貧院ノ規則ヲ允可スル國王ノ決議

現未兩世ニ在テ安全ヲ保祐セラレ可キ白耳儀國王レナボールハ司法大臣ノ建白ニ依リ同大臣ガ規定シタル「ブリウシウ」府貧院規則並ニ千八百三十三年八月二十九日ヲ以テ決議セル癡狂救恤院規則第十四條ヲ參考シテ左ノ如ク議決ス

第一條

司法大臣ノ檢閲シタル「ブリウシウ」府貧院規則ノ草案ヲ允可シ并セテ同大臣ニ該規則ノ執行ヲ任命ス
白耳儀國王レナボール
司法大臣 ビクトール、テスク

○白國ブリウシウ州貧院規則

第一章

白國貧院規則

第一條 州會議員ハ政府ノ監督ヲ受ケ貧院ヲ直轄スルモ
ノトス

第二條 貧院監督事務ハ千八百三十三年八月二十九日國
王ノ決議書ニ依リ該決議書注文「ブリウウシウ貧院監督委員
ハ七名トシ「ブリハム貧院ノ監督委員ハ九名ヲ限ル」ホ
「グストラエテ」貧院規則第一條該院ハ監督委員九名
ヲ以テ組織ス第五條各監督委員ハ一週間三「フラン」ノ金
ヲ給與スルモ旅費滞在費等ハ州會議ニ於テ決議セル規
則ニ依テ之ヲ給與ス可シ
モ州貧院規則第十六條監督委員ノ數ヲ十名トナシ該
委員中ヨリ副議長ヲ撰拔ス然ルニ後來ニ至リ遂ニ其數
ヲ増加シテ十五名トナスニ至レリ

第五條 第一ノ屬員ニハ院內ノ取締方、食物ノ、寢具ノ、
衣服類ノ、衛生ノ、衣服洗濯ノ、麻布製造場ノ、及之
ニ關スル書類ノ檢查第二ノ屬員ニハ工業一般ノ、原質
品購買方、製造方、賣捌方、工業上ノ計算、建家及動產物ノ建
築並ニ修繕ノ、第三ノ屬員ニハ初學教授方、宗教及該院
ノ規律道德ニ關スル總務ヲ任命ス
三名ノ屬員ハ事ノ大少ニ關セズ豫メ監督委員ノ許可ヲ
得スシテ斷然事務ヲ所理スルヲ得ス
又屬員ハ各三ヶ月期若クハ其他要用ナリト認ムル場合
ニ在テハ數々監督委員ニ己レノ意見ヲ陳述スルヲ得
第六條 監督委員ノ一名ハ同僚ノ代理トシテ少ナクモ每
週一回ハ同院ヲ巡察スベシ

カンブル州貧院規則第一條 監督委員ハ十一名ヲ以テ組織シ任命スル所ノ特別委員ニ委托スルモノトス

第三條 監督務ノ外ニ州會議員ノ許可ヲ得テ特別役員ニ左ノ諸務ヲ任スルコアルベシ即チ諸勤務ニ緊要ナル諸物ノ購買若クハ投票ノコ議員ノ許可ヲ得サル前ニ當リテ計算ノ調査、工業賞譽ノ價額ヲ定ムルコト毎年度豫算ノ建言其他貧院ノ行政及ヒ經濟等ノ總務ナリトス

第四條 監督委員ノ規定シタル時日ニ於テ少ナクモ一ヶ月間ニ一回ハ集會ヲナサシムベシ又臨時會ヲ開ク時ハ議長ヨリ其旨ヲ報告シテ之ヲ召集ス其集會ハ皆チ成ル可ク該院ニ於テ開會スベシ又集會ノ席ニハ監督委員ノ調査簿ヲ提出シ議長及書記之ニ調印ス

是時ニ於テ月番委員ハ入院ヲ許可シタル貧究者或ハ乞兒若クハ他ヨリ護送シタル貧究者或ハ乞兒ヲ監督委員ノ面前ニ誘導ス是ニ於テ監督委員ハ其前業ト斯ク貧究ニ陥リタル原因ヲ吟味シ且其所願ヲ訊問スベシ而ル後各部ニ於テ該規則ヲ良ク執行スルヤチ監察シ尙ホ貧院ノ各部ニ貼付スル入院者ノ義務及ヒ規律ニ係ル規則ノ方法ヲ諸人ニ朗讀聽聞セシメ若クハ之ヲ説明ス其時ニ當テ各々職務上ニ於テ發明シタル事項ハ皆チ之ヲ簿冊ニ記載シテ毎月次會ニ之ヲ提出スベシ

第七條 又監督員中ヨリ會計監督ヲ撰拔シテ出納ノ事務ヲ負擔セシム但其任命ハ州會議員ノ許可ヲ得ヘシ又其改撰期限ハ監督委員ノ改撰ト同時ニ於テスベシ

會計監督ハ議長若クハ監督委員代理ノ一名ト共ニ出納簿ニ調印スベシ

第八條 諸監督ハ前數條ニ記載スル事務勤務ノ爲メ本住地ヨリ該院ニ至ルマテ「リウ」以上ヲ隔離スル時ハ其旅費ト滞在費トヲ給與スヘシ但議員ニ於テ規定シタル其費額ハ皆該院ノ負擔タルヘシ

第九條 議長ハ會議委員等ノ討論ニ可否ノ決ヲ與ヘ且議長ノ名目ヲ以テ該院ノ証書類ニ調印スルヲ得議長若シ事故アリテ出席セサル時ハ監督員中久シク其職ニ在ル者之カ代理タルヲ得ベシ

第十條 會議ニハ數名ノ書記ヲ附属スベシ又々其ノ書記ノ職制ハ猶ホ貧院ノ諸官吏ト同一タリ故ニ監督ノ建言

ニ依リ州會常置議員之ヲ任命ス而ノ其書記ニ給與スル月俸モ亦々其任命ト等シク常置議員ノ建言ニ依テ之ヲ決定スベシ

第十一條 書記ハ會議ノ席ニ於テ討論ノ調査簿ヲ認メ會議ノ通信ヲ掌リ且ツ會議委員ト共ニ該院ノ証書類ヲ認タメ之ニ調印スルヲ得ベシ又々會計監督ノ事務多忙ナル時ハ特別ニ之ヲ補佐シ時トシテハ監督委員ノ事務ヲ補佐セシムルヲアルベシ

書記若シ事故アリテ出席スル能ハサル時ハ監督委員ノ一名ヲ以テ假ニ書記ノ事務ヲ執ラシムベシ

第十二條 諸物品ヲ購買スルト投票拂トノ法ハ過半數ノ動議アルニ非ラサレハ決議スルヲ得ベカラス然レモ若

シ其決ヲナスニ於テハ各出席委員各自所持スル所ノ簿冊ニ其事狀ヲ記載スベシ

第十三條 若シ過半数ニ滿タサル時ハ右條ニ記スル事項ノ決議ハ次會ニ於テ決スルヲ得故ニ假令ヒ現員ニ於テ如何ニ論述スル所ロアリト雖モ過半数ニ充タサルキハ次會ヲ待ツニ非ラサレハ確然タル決議ヲナスヲ得ス

第十四條 監督委員ハ毎年度ノ始メニ當テ前年度ノ細目及諸規則ニ改良ヲ要スル事項等ヲ州會常置議員ニ報告スヘシ且ツ此報告書ハ委員ノ意見ヲ付シタル者ヲ以テ司法大臣ニ回達ス

第十五條 該院ノ証書類、書籍類、及其他ノ書類ハ總テ文庫

ニ收藏シ之カ監守ヲ怠タルヘカラス

第二章 金庫 計筭 豫筭表

第十六條 在院者給養費及ヒ該院諸費ニ供スル金庫ハ監督委員ノ一名若クハ主計委員ノ名稱ヲ付スル特別役員ニ委任スベシ

若シ金庫受任者ニシテ監督委員ニ非ラザル時ハ必ズ主計官ニ限ルベシ其月俸ハ出納額ノ比例ヲ以テ之ヲ給與スベシ主計官ハ入額計筭ニ係ル法律及ヒ規則ヲ遵守スルヲ要ス又主計官ハ月俸ノ額ニ從ヒテ之ニ相當ス可キ保証金ヲ拂ハシム但其金額ハ金庫監督委員ノ建言ニ依リ州會議員之ヲ規定ス
若シ議員ニ於テ其主計委員ヲ緊要ナリト判知スル時ハ

之ニ書記ノ事務ヲ任命スルコトアルベシ

第十七條 主計官ハ定則ニ從ヒテ正理ナリト判定シタル

支拂書ニ非ラザレハ決シテ支拂スルヲ得ス

一 其支拂書ニハ必ス支拂スヘキ物品ノ性質ヲ記載シ
又緊要ナル場合ニ在テハ監督委員ニ於テ支拂ヲ許可
シタルノ月日ヲ記載スルコトアリ総テ此支拂書ニハ議
長ト會計監督ト之レニ調印スルモノトス

二 支拂既濟ノ書ハ受領者ノ請取書ト齊シク主計官ヨ
リ毎年報告スル決算書ニ合附ス

第十八條 主計官ハ右ノ諸帳簿及ヒ金庫ノ貯金トテ會議
委員若クハ議長ニ示シ其點檢ヲ乞フベシ三ヶ月期ニ當
レハ出納金額ノ決算ヲ二通ニ認タメ一通ハ之ヲ監督委

員ニ送致シ他ノ一通ハ之ヲ州會常置議員ニ回達スヘシ

第十九條 毎年出納金額總計書ヲ主計官ヨリ翌年三月ニ

開會スヘキ會議ニ提出セシメ假定シタル後之ヲ州會常
置議員ニ回達シテ確然タル決議ヲナサシムヘシ

又其總計書ハ決定ノ八日後ニ至リ貧院ヲ統轄スル他ノ
州會常置議員ニ於テ之ヲ謄寫シ而ル後チ直ニ貧院設置
ノ州ニ回送シテ之ヲ公布スヘシ

第二十條 主計官カ認メタル豫算ト其草案トハ司法大臣
ノ允許スル雛形ニ從フ可シ

第二十一條 毎年ノ支出ニ係ル豫算費額案ハ毎年十一月
十五日ニ監督委員ヨリ之ヲ建言シタル後チ直ニ之レヲ
州會委員ニ回送シテ假定シ十二月十五日前ニ至リテ司

法大臣ノ允許ヲ得ルカ爲メ之ヲ出サシム又豫算表一部ニハ特別ノ計算ヲ要スベキ工場ニ關スル出納費額ヲ記載スヘシ

其豫算表ノ他ノ一本ヲ貧院ヲ管轄スル他ノ州會議員ニ通達スヘシ

第二十二條 州會委員ニ通達シタル豫算表ニハ貧院會議ニ於テ左ノ意見ヲ附シ在院者老者及疾病者等ノ給養費ヲ決定スルヲアリ又々其意見ニ依リテ諸物品買求ノ數ヲ多少減少スルヲアルベシ

第二十三條 前條ノ方法ニ依リテ規定シタル出費ハ貧院ノ収入額ヲ以テ支拂フベシ若シ入金額ニ不足ヲ生シタル時ハ州會及ヒ政府ヨリ支出スル所ノ扶助金ヲ以テ之

ヲ支拂ハシム可シ
若シ此ノ各種ノ金額ニ於テ不足ヲ生シタル時ハ資金ヲ前納スルノ方法若クハ返濟法ヲ設ク可シ此ノ際ニ當テハ監督委員ハ右ノ方法ヲ設ケタル旨ヲ州ノ行政官ニ報告スベシ但シ其方法ヲ施行スルハ己ムヲ得ザルノ際ニ於テスベキモノトス(千八百三十三年八月二十九日ノ決議書ヲ見ルベシ)

第二十四條 各三ヶ月期ノ末ニ至レハ州會常置議員ヨリ在院者ノ就業日數及ヒ其就業日數ヨリ生シタル金額、邑ヨリ惠與セラレタル金額等ヲ明細ニ記載セル簿冊ヲ以テ在院者ノ救恤本住地ノ邑吏ニ出ス可シ

第二十五條 各三ヶ月期ノ第一會ニ於テ前三ヶ月期ニ給

與セザル俸給殘額記簿ト他ニ要スル費金ノ簿冊トヲ出
ス可シ

若シ此ノ如キ場合ニアツテハ千八百三十三年八月十五
日ノ法律第四條第五條及第六條ニ記載スル方法ニ依テ
監督委員ニ之ヲ處理セシムベシ

第三章 諸役員

第二十六條 貧院ノ諸役員ハ左ノ如ク組織ス

- 一 院長
- 二 書記二名若クハ數名但事務ノ繁賒ニ從テ増減ス
ルモノトス
- 三 教誨師
- 四 教師

- 五 免許内外科醫員
- 六 免許副醫員
- 七 工業取締長
- 八 食料、衣類、寢具、収藏庫取締
- 九 病室取締長
- 十 監察長
- 十一 工業監察員
- 十二 女教師
- 十三 看護婦
- 十四 門監
- 十五 工業場ノ監察員及監察、女工場長及ヒ女長
但任命スヘキ役員ハ該院ノ人員ノ數ニ應シテ増減ス

ルモノトス

州會議員ハ貧院會議委員ノ建言ヲ以テ右諸官吏ヲ増減
シ或ハ改撰スルヲ得ルノ權ヲ有ス

委員カ諸官吏ヲ撰擇スルノ時ニ際シテハ其月俸及ヒ退
隱料ヲ規定スル時ト齊シク之ヲ討議スルヲ得ヘシ

第四章 諸役員職掌及ヒ義務

第二十七條 諸役員ハ院長ノ指揮ニ服従スヘキハ勿論ナ
リト雖モ主計官及ヒ會議ノ書記ハ各其長ノ命令ヲ直ニ
服行スベキ者ナレバトヒ院長タリト雖モ妄リニ從服
スルヲ得ス院長ハ監督委員ノ直監ヲ受ケ且ツ自己ノ責
任ヲ以テ貧院ノ内務ヲ司トルノ義務ヲ有ス但取扱規則
及ヒ規律トニ從フベキモノトス故ニ院長ハ監督委員ノ

命令ヲ服行シテ入札拂ト賣却トニ係ル契約書ヲ監督ス
ベシ

院長ハ入院者ヲ受領シテ其姓名ヲ簿冊ニ記入スルノ事
務及ヒ退院ノ事務トヲ司トルベシ又タ少ナクモ一日一
回ハ院内ノ各部ヲ巡察シテ在院者ノ請願シタル事項若
クハ告知シタル事項ヲ以テ緊要ナリト判定スル時ハ其
旨ヲ監督委員ニ報告スヘシ其他動産物、寢具、衣服類及ヒ
食料等ノ管理ハ悉ク皆テ院長ノ責任タルベシ
院長ハ各種ノ諸役員ノ補佐ヲ得テ其職務ヲ擔任スルヲ
要ス

第二十八條 院長ハ毎日該院人員ノ形况ニ關スル報告書
ト共ニ被罰者ノ記事及ヒ廢物ニ屬スル衣服類ノ記事ト

ノ概要ヲ監督委員ニ報告セシム
院長ハ定則ニ從ヒテ左ニ記載スル各種ノ簿冊ヲ毎月調製スベシ

- 一 衣服類、消費物等ヲ收藏スル倉庫ノ簿冊
- 二 諸工場ニ於テ營作スル者ノ年齢、一ヶ月間ニ賣捌タル諸物品及ヒ工業場ノ形况等ニ係ル簿冊
- 三 學校生徒ノ人員、入校者及ヒ退學者ノ人員ヲ記載スル簿冊
- 四 其手續ヲ經ズシテ圖ラズ入院シタル人員簿
- 五 貧院ノ計算中ニ加入スル前拂金額ノ明細表其他各三ヶ月期ノ始メニ當テ院長ハ右ト齊シク左ノ簿冊ヲ監督委員ニ付與ス可シ

- 一 人員簿及ヒ前三ヶ月期ノ衛生上ニ關スル簿冊ハ各二通トナシ其一通ヲ監督委員ニ出スト同時ニ州會議員ニモ送付スベシ
 - 二 衣類寢具ニ關スル簿冊
 - 三 給養費ヲ返納ス可キ在院者ノ人名簿但シ該簿冊ハ州會議員ニ送付ス可シ
- 院長ハ毎年ノ始メニ當テ監督委員ニ左ノ明細録ヲ送付スベシ即チ院長ヨリ委任セラレタル諸務ノ明細録ハ該監人員録及ヒ諸規則ニ改正ヲ要ス可キ明細録等ナリ但シ該明細録ハ總テ第十四條ニ記載スル者ト齊シク州會議員ヨリ司法大臣ニ之ヲ回達ス
- 第二十九條 院長疾病ナルカ若クハ他ニ事故有テ事務取

扱ヲナス能ハザル時ト齊シク欠席セントスル時ト雖モ亦タ其代理者ヲ豫メ撰定シテ州長ノ許可ヲ得ルニ非ラザレハ猥リニ欠席スルヲ得ス
 一ヶ月以上事故アリテ事務ヲ取扱フコト能ハサルキハ司法大臣其代理者ヲ撰定スベシ
 其他諸役員ニ在リテ事務ヲ取扱フコト能ハザル時ハ院長其旨ヲ承認シタル後チ監督委員若クハ議長ノ許可ヲ得テ而ル後之ヲ認可スルコト要ス
 院長ハ諸役員ニ二十四時間ノ欠席ヲ許スト雖モ若シ至急ノ場合ニ在ツテハ其旨ヲ監督委員ニ告知シテ欠席スルヲ得ヘシ

第三十條 諸役員ハ監督委員カ州會議員ノ許可ヲ得テ命

令スルコトアル時ハ破院ヲ防禦スルノ武器ヲ裝置スルヲ得ヘシ諸役員ハ院長ノ許可ヲ得ザレハ在院者起床前ト工業時間トノ間ニ該院ヲ出ヅルヲ得ス
 特許ヲ得ルニ非ザレハ午後十時ノ入寢鐘ヲ報スルニ先ツテ入寢スルヲ得ス故ニ門監ハ入寢鐘ヲ點スルト同時ニ院長ノ居ル所ノ室戸ニ鍵ヲ施スベシ
 該院ニ關係ナキ者ハ決シテ夜中院内ヲ通過スルヲ許サズ

但シ院長ノ許可アル場合ハ此限ニ非ス

第三十一條 通常委員ヲ責罰スルコトアルキハ院長ノ意見ヲ記載セル所ノ報告書ヲ以テ監督委員若クハ院長ヨリ其宣告ヲナス可シ

院長ハ八日以上該院外ニ在ルヲ禁セラル、ノミナラズ規則外ノ事務ヲ命令スルヲ禁ス又監督委員ハ一ヶ月以上該院ヲ退去ス可カラス又該院金庫ノ利益ヲ算リ一ヶ月以上ノ滞在費ヲ受取ルベカラス

監督委員ヨリ役員ヲ罰スベキ意見書ヲ提出シタル時ハ一旦其職務ヲ免セシメ直ニ元來其被免者ヲ推舉シタル上官ニ其旨ヲ報告スベシ

第三十二條 監督委員ハ院長ニ在院者ヲ信實ニ待遇スベキ旨ヲ特命シ且ツ嚴格ニ諸役員ノ品行ヲ監察スルノ責任ヲ有セリ

第三十三條 女子部ノ監察及ヒ監督務ハ女子監察ニ之ヲ托任ス故ニ院長若クハ教誨師タリ雖モ其女子部ニ行フ

トスル時ハ必ズ女監察ノ案内ニ依ルヲ要ス

第三十四條 諸役員ハ在院者ト諸物品ノ賣買ヲナシ或ハ受領シ或ハ該院ニ属スル物品ヲ給與スル等ノヲ禁ス若シ之ヲ犯ス者アルハ其官職ヲ罷免ス又在院者ニ諸物品ヲ貸與シタル時モ亦右ト同一ノ處分ヲ以テスベシ

第三十五條 如何ナル役員ト雖モ院長ノ許可ヲ得且ツ豫メ監督委員ノ許可ヲ得ルニ非ラザレバ二十一年以上ノ在院者ヲ己レノ事務上ニ使役スルヲ得ベカラス

下婢ノ勞ヲ執ル女子ニ給與スベキ賞譽ハ在院者賞譽規則ニヨリテ之ヲ規定ス而シテ院長ハ毎月其賞譽ヲ授與スベキ人員調査ヲ爲スノ任アリ然レモ其配與方ハ後章

ニ記載スル方法ヲ以テ執行スベキモノトス

第五章 貧究者ノ入院ノ許可及退院

第三十六條 貧究者ヲ入院セシムルノ許可及退院ハ總テ千八百四十八年四月三日頒布ノ法律及千八百四十九年七月十五日頒布ノ國王ノ決議書ニ據ルベシ

第六章 入院規則

第三十七條 乞者若クハ貧究者ノ入院ヲ証明スヘキ簿冊ハ院長ノ詰所ニ於テ監察員之レニ調印シ且ツ左ノ事項ヲ記入スルモノトス即入院者ノ姓名、年齢、職業、住所、産地、救恤、本住地入院退院ノ月日若クハ死亡ノ月日、所持ノ物品及ヒ衣服包ミノ番号、入院退院ノ命令証及ヒ其許可ノ証、該院ニ入院シタル理由ノ略記、入院ノ度数、其他成ル可

ク精細ニ入院者ノ前業親族等ノ事狀ヲ記載スル報告書ヲ認ムヘシ而シテ其報告書ニ依テ退院後ノ生存方ヲ計畫セシムルガ爲メ之ヲ監察員ニ回達スルヲ要ス

右簿冊ノ拔萃書ヲ政府ニ回送シテ乞者若クハ貧究者ノ救恤本住地ヲ明瞭ニスルヲ要ス但シ之ヲ政府ニ回送スルハ入院退院ノ要件ヲ規定スル千八百四十九年七月十五日國王ノ決議書第五條ヨリ第七條ニ記載スル方法ト同一ナルモノトス

在院者ガ得ル所ノ俸給モ亦タ右簿冊ニ記載ス又タ其俸給ヲ以テ在院費ヲ支辨セシム但シ支辨ニ充分ナラザルキハ宜シク救恤本住地ノ邑里ヨリ之ヲ補助セシムルモノトス

第三十八條 入院ノ乞丐若クハ貧究者ハ醫員ノ診察ヲナ
 スニ至ルマテ一時仮留室ニ置カシムベシ但シ事宜ニ依
 リ延引スルコト有モ入院ノ翌朝ヲ限リトス若シ疾病者ナ
 ル時ハ之ヲ病室ニ入レ健康ナル時ハ之ニ沐浴セシメ而
 ル後チ該院一定ノ衣服ヲ着セシメテ院長ノ指示セル組
 合ニ編入セシムベシ
 入院時ノ衣服類ハ退院時ニ至ルマテ悉ク倉庫ニ收藏ス
 然レモ若シ其衣服類ヲ保存スル能ハザル時或ハ汚穢ニ
 シテ保存スルニ堪ヘザル時ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ賣
 却シ若クハ燒棄スヘシ

第七章 在院者ノ區別及ヒ取扱方

第三十九條 在院者ヲ三等ニ區別ス

- 一 乞丐取締長若クハ無籍者取締長ヨリ被罰セラレタ
 ル壯健者
 - 二 請願ニ依リテ入院シタル壯健貧究者
 - 三 多病若クハ羸弱ナル貧究者及ヒ乞丐
- 六年ヨリ十八年ニ至ルマテノ男女ハ之レガ爲メ特別監
 チ創設スルノ間ハ之レチ離隔シタル場所ニ置カシムベ
 シ
- 六年未滿ノ幼者ハ男女ノ別ナク其母ニ附属ス
- 第四十條 各區ハ成ル可ク之ヲ離隔シタル所ニ於テ工業
 ニ就カシムベシ
- 就中男女區ハ嚴重ニ區別セシムベシ然レモ工場不完全
 ナル時及ヒ政府ヨリ其工場ヲ與フルニ至ルマテノ間ハ

監察員ハ婦人ト丁年者トヲ成ル可ク區隔スルヲ要ス
第四十一條 在院者ヲ監察スルハ其年齡、前業、体格及ヒ當
時ノ形況トニ從ヒテ監察スルヲ要ス

第四十二條 仮令ヒ各區ノ組織如何ナルニモセヨ多病及
ヒ老者組合ハ成ル可ク注意シテ監察スルヲ要ス又タ
其多病者ト老者トハ該院ノ命令ヲ得テ体軀ヲ自由ナラ
シムベシ
壯健貧究者ハ之レニ反對シテ工場製作場ニ於テ十分勞
働セシメ尋常ノ職工社會ニ編入スルノ準備ヲ訓習セシ
ムベシ
壯健乞丐者ト無籍者トハ法律ノ罪人ナルガ故ニ之ヲ區
別スルガ爲ニ設ケタル特別區ニハ懲戒區ノ名稱ヲ附ス

院長ノ建言ニ依リテ監督委員ハ右懲戒區ニ於テ左ノ者
ヲ入ル即チ入院ヲ志願シタル者ニシテ工業ヲ嫌避スル
者院内ニ在テ騷擾スル者、品行不良ナル者若クハ前業ニ
賤陋ナル者等是ナリ
懲戒區ノ規則ハ該規則書ノ終リニ記載スル特別法ヲ施
用ス

普通區ニ於テ工業ニ從事スル貧究者及ヒ少年者ハ監察
員ニ接スルヲ得ルト雖トモ懲戒區ニ於ケル貧究者等ハ
監督委員ノ特許ヲ得ハレバ監察員ニ交ハルヲ得ヘカラ
ズ

第四十三條 工業ハ壯健貧者及ヒ乞丐者等ノ執ルヘキ者ト
ス故ニ此輩ハ其命令セラレタル職業ニ怠惰ナル時ハ無

論賞譽ヲ得ヘカラス又タ食物規則ハ服役ヲ獎勵スルノ方法ヲ以テ組織ス

第四十四條 左ノ場合ニ在テハ工業ニ従事セシムルヲ要

セス

- 一 病室在留ノ時
- 二 六歳未満ノ幼年者及ヒ七十歳以上ノ老者
- 三 重病者ニシテ工業ニ就クヲ能ハサル者

第四十五條 前條ノ事情ニ由テ工業ヲ停止スルハ固ヨリ勿論ナリト雖モ他ノ在院者ニシテ工業ヲ嫌避シ或ハ命セラレタル職業ヲ忌タル時ハ該規則書ニ記載スル方法ヲ以テ之ヲ處分ス

第四十六條 在院者ハ總テ教育係監察員等ノ命令ニ服從

シ且ツ之ヲ尊敬スルヲ要ス
若シ在院者ニシテ諸役員中ノ一人ヲ被告トシテ告訴スルイアル時ハ其旨ヲ院長若クハ監督委員ニ直接ニ報告スベシ

第四十七條 在院者ハ監督委員ノ指揮ヲ受クル所ノ院長ヨリ豫メ許可ヲ得サレバ公然タル書類ノ取扱ヲナスヲ得ベカラス

第八章 待遇方及ヒ取締方

第四十八條 起床、入寢、工業、飲食、休業、宗教、教育、時間等ハ總テ院長又ヒ教誨師ノ意見ヲ参考シテ監督委員之ヲ規定スト雖モ州會議員ノ許可スルハ此限リニ在ラズ
時間及ヒ甲ヨリ乙ニ至リ若クハ學問ト政業トノ變換ノ

又甲所ヨリ乙所ニ行ク時ハ列チ正シ沈黙法ヲ遵守シ監
 察員或ハ各房長若クハ工長ノ案内ヲ得ベシ
 第四十九條 在院者ハ起床後直ニ寢床ヲ整頓シテ監察員
 ヨリ命セラレタル清潔法ヲ行フベシ
 各區ノ監察員各房長若クハ院長ノ命令ヲ受ケタル他ノ
 役員等ハ起床後及ヒ入寢前ニ當テ在院者ノ姓名ヲ點呼
 シ寢室若クハ各區ノ某房ニ於テ禮拜ヲナサンムヘシ
 第五十條 監察員及ヒ監察婦ニ命シテ各區ノ秩序ト安寧
 及ヒ清潔法ヲ施行スベシ然レモ其方法ハ宜シク院長ヨ
 リ與ヘラレタル教令ニ從ヒテ其事務ヲ勤務ス
 第五十一條 監察員ト及ヒ監察婦ノ下ニ各房ニ於ケル房

長ヲ附属セシム又タ其房長ニハ在院者ノ服従スベキト
 ノ監察員ト同一ナルヲ要ス
 第五十二條 毎朝點呼及ヒ禮拜ヲ終リタル後チ職工ハ各
 々工場ニ赴キ其業務ニ就クトヲ要ス又タ羸弱者ハ監察
 員ヨリ教示シタル房若クハ温室ニ赴クヘシ
 第五十三條 工場長ハ職工等ノ工場ニ入ルヤ直チニ其姓
 名ヲ點呼シテ當時ノ形況ヲ工業取締長ニ報告スベシ
 各々工業ニ就ク處ノ工業取締長ガ毎朝工場巡回ノ時ニ
 當テハ職工ノ一名若クハ數名カ己ノ業務ヲ放棄シテ安
 リニ工業場ヲ退去スルモ直ニ其旨ヲ院長ニ報告ス
 職工ガ工場ニ在リテ業務ニ就クノ時間ニ院長ヨリ命セ
 レタル在院者ヲ以テ各寢室、內庭、階梯、室爐、厠等ヲ清潔

ニ掃除セシムベシ

第五十四條 寢具ニハ各番号ヲ附スルカ故ニ院長ノ許可ヲ得スシテ猥リニ其番号ヲ變更スルヲ得ス若シ此ヲ犯ス者アレハ之ヲ罰スベシ

第五十五條 喫食前ニ當テ瞬間禮拜ヲナシ而ル後チ沈黙則チ遵守セシメ遂ニ喫食ニ就カシム又タ喫食時間ニ當リテハ宗教上若クハ道德上ノ書ヲ朗讀聽聞セシムベシ

第五十六條 休業時間ハ監察員ノ面前ニ於テ沈黙則チ遵守セシメ尙ホ運動ヲナサシムベシ此間ハ成ル可ク規則ニ抵觸セサルヲ要ス

第五十七條 院内ニ文庫ヲ設置セリ故ニ諸書籍ノ部類ノ

區別及ヒ規則書ハ常置委員ノ許可ヲ得テ監督委員之ヲ決定ス

第五十八條 監察員若クハ工場長ノ許可ヲ得サル在院者ハ如何ナル托言ヲナスコアルモ及ヒ如何ナル刑罪アルモ各寢室、工場若クハ庭内ヲ出スヘカラス

各監察員及ヒ工場長等ハ各其責任ヲ有スル所ノ標章ヲ與ヘシム故ニ在院者ハ總テ標章ヲ所持セサレハ外出スルヲ得ズ若シ途中ニテ監察員若クハ工場長ニ遭遇シタル時ハ其標章ヲ示スコトヲ要ス

第五十九條 該院ニ關係ナキ者或ハ諸役員等ガ工場若クハ他ノ場所ニ來臨シタル時ハ尤モ長ク沈黙則チ遵守スルヲ要ス又タ在院者院内ノ諸役員監督委員若クハ其他

ノ人ニ遭遇スルコトアル時ハ必ず敬禮ヲ怠タルベカラズ
若シ在院者ニシテ請求スヘキ事アル時ハ佇立手ヲ掲ゲ
禮容ヲナシテ其係員ノ來ルヲ待ツヘシ

第六十條 在院者ノ朋友及ヒ父母ハ院内ニ來ルヲ許サズ
然レモ院長ノ建言ニ依リテ監督委員ノ規定シタル時間
ニ依テ唯タ日曜日ノミ應接所ニ於テ面會スルヲ許ス
在院者ハ凡テ院外人ト通信スルヲ禁ス但シ必要ノ場合
アリテ院長ノ許可シタル者ハ此限りニ非ス
在院者が如何ニ巧ナル託言ヲ以テスト雖モ監督委員ノ
特許ヲ得ルニ非サレハ決シテ院外ヨリ金錢、食物及ヒ他
ノ諸物品ヲ受領スルコトヲ得ズ

第六十一條 在院者ノ送達スル書簡ハ院長之ヲ開封検査

シタル後之レヲ指名者ニ送附ス又タ在院者ニ宛テ院
外ヨリ送達シタル書簡モ亦モ院長之ヲ検査シタル後之
ヲ記名ノ者ニ下付スヘシ若シ其書簡ヲ以テ妨害アル者
ト認ムルモ之ヲ監督委員ニ送附ス是ニ於テ監督委員
ハ其開封シタルノ旨ヲ記載シテ之ヲ先ノ送達者ニ返付
スベシ

監督委員或ハ議長或ハ郡吏或ハ州會常置議員或ハ司法
大臣ニ送付シタル書簡請求書及ヒ歎願書等ハ各區ニ在
ル特別ノ書類箱ニ入レシメ而シテ其書類箱ノ鍵ヲ托任サ
レタル監督委員ニ於テ直ニ記名者ニ之ヲ送付ス

第六十二條 議長ハ特別ナル場合及ヒ議員過半数ノ發言
ニ依リ日中間在院者ノ出院ヲ許スコトアルベシ但シ此許

可テ得ルノ請求書ハ院長ヨリ議長ニ協議スヘシ又タ至急ノ場合ニ在テハ唯々議長ノ意見ヲ咨訊スルガ爲メ請願書ヲ出サシム

第六十三條 在院者ハ互ニ金錢、食物及ヒ諸物品等ノ貸借ヲ禁ス尙ホ骨牌及ヒ一六勝負ヲ嚴禁ス

諸役員ハ右事情ヲ注意シテ骨牌勝負ノ爲メ金錢ヲ使用スル時ハ之ヲ沒収シテ貯金所ニ預入セシムベシ

第六十四條 院内ニ在テハ喫烟ヲ禁スト雖モ院長ヨリ許可セラレタル老者多病者及ヒ志願ノ入院者ハ此ノ限りニ非ス但シ假令ヒ院長ノ許可ト雖モ懲戒區ニ在ル時ハ之ヲ禁スベシ

在院者ハ「ブリック」(火打石)「アマツウ」(ホクテ)及ヒ可燃物ヲ所

持スルヲ得ズ又タ女子ハ「ジョー」(足ヲ暖ムル器)ヲ使用スルヲ禁ス

第六十五條 慈善箱ヲ院内ニ置キ來院者ノ目ニ觸レ易キ所ニ置カシム而シテ其投與セラレタル慈惠金ハ皆テ補助金中ニ収入セシム

第九章 賞譽及ヒ罰則

第六十六條 該規則ハ道德、宗教上ノ教育、義務其他乞者及ヒ貧究者ノ能力智識ヲ獎勵スル事項ヲ犯セル罪狀ニ從ヒテ左ノ如ク所罰ス

- 一 在院者ガ得ル所ノ金錢ノ全部若クハ一部ヲ剝奪シ或ハ親屬ト通信スルヲ禁シ或ハ賞譽品ヲ剝奪シ或ハ商肆ノ購買ヲ禁ス

二 償金ヲ科シ若クハ施惠セラレタル物品ヲ與ヘサル

三 臨時工業

四 麵包及ヒ水ノミヲ與ユル

五 工業ニ服從セシメ或ハ之ヲ服役セシメズ特居房ニ
監禁スルヲ若クハ減食セシムル

六 暗室ニ入レシムル

七 懲戒區ニ入レシムル

第六十七條 右諸罰ハ一ヲ以テ罰スルアリ若クハ數罰并
科スルヲアリ總則ニ於テ科罰ノ宣告ヲナスノ權利ヲ有
スル者ハ院長ニシテ而シテ院長ハ之ヲ其近時ニ開會スベ
キ監督委員會會議ニ其旨ヲ告知スルモノトス

特居拘禁ノ罰及ヒ暗室拘禁トハ監督委員ノ許可ヲ得ヘ
キモノトス而シテ其日數ハ長クモ十五日以上ヲ超過スル
ヲ得ズ

監督委員會開會ナキ間ニ於テ院長ガ科シタル罰ヲ更正
シ或ハ増減スルヲアルベシ

三日間以上麵包及ヒ水ノミヲ與ユル所ノ罰則ヲ宣告ス
ル時ハ其期ヲ終リタル後ニ於テ漸クニ常食ニ復セシム
ベシ又其麵包ノ量ハ常食ヨリ十一半ヲ減少スルヲアリ

特居拘禁時間ハ少ナクモ隔日ニ一回ハ醫官之ヲ診察セ
シメ其健康ヲ注意シ且ツ其ノ形況ヲ院長ニ報告スベシ

第六十八條 脱院ヲ企タル在院者ガ得ル所ノ金錢ハ悉ク
沒收シテ補助金中ニ加入セシム但シ其罪ヲ悔悟シタル

徴候アル時ハ此限ニ非ラズ

第六十九條 院長ハ罰則及懲戒ニ係ル特別ノ簿冊ヲ所持シ其番号ノ順序ヲ以テ不良者ノ姓名、年齢、罰名ヲ之レニ記載スベシ

在院者が退院ヲ請求スル時ニ當リ此簿冊ニ記載スル成跡ノ何如ニ依テ其可否ヲ決定ス

第七十條 在院者ノ犯シタル罰ニシテ罰則外ノ罰若クハ重罰ノ性質ナル時ハ該規則書ニ記載セル罰則ニ係ハラズ院長直ニ其調査簿ヲ認メ之ヲ郡ノ大檢事ニ送達スヘシ

第七十一條 品行ノ方正ニシテ且ツ業務ニ勉勵スル乞者及ヒ貧究者ニ賞譽スルハ固ヨリ論ヲ俟タズ故ニ該規則

ニ記載スル賞譽外ニ一ケ年間數々在院者ニ適當ノ衣類書籍及ヒ補助金ヲ監督委員ヨリ給與スルコトアルヘシ又タ其ノ退院ノ時ニ當テモ亦タ之レト同一ナルベシ其全額ハ第六十三條第六十五條及ヒ第六十八條ニ記載スルモノヨリ生シタル金ニ非スシテ州會常置議員ノ許可ヲ得テ監督委員ヨリ特別ニ付與スル補助資金ヲ以テ之ヲ支拂セシム

第十章 飲食料規則

第七十二條 食物ハ総テ在院者ノ年齢、強弱若クハ疾病者ニ從ヒテ之ヲ規定ス故ニ其規則ハ州ノ普通職工社會ノ習慣法及ヒ需要品トニ大ニ關係アルベシ

第七十三條 院長ハ一般食物ニ關スル責任ヲ有セリ故ニ

若シ該院ニ麵包製造所ノ設ケアル時ハ善良ノ麵包ヲ製
出シテ之ヲ給與スルヲ要ス

第七十四條 毎日給與スル麵包及ヒ其他ノ食量ハ州會議
員ノ許可ヲ除クノ外總テ監督委員之ヲ規定ス其順次ヲ
定ムル左ノ如シ

第一 強壯者

第二 老者及ヒ疾病者

第三 幼者

第四 女子

斯ノ如ク順序ヲ規定シテ之ヲ配與スルモノトス又タ第
三ノ幼者ニハ特別ニ乾酪、肉類及ヒ麥酒ノ總量ヲ與ヘシ
ムベシ

第七十五條 在院者ハ總テ醫員ノ命令アルコアラザレハ

疾病者ト齊シキ食物規則ニ從フヲ得ズ

疾病者ニ給與スル食物ハ醫員ノ規定ニ係ルモノナレハ
全量ヲ給スルコトアリ或ハ全量ノ四分一或ハ四分三ノ羹
汁ヲ給スルコトアルベシ

醫員ニ於テ其請求ヲ至當ナリト判定スル時ハ疾病者ノ
希望スル食物ヲ給スルコトアルベシ

第七十六條 麵包ハ製造シタル後二十四時間ヲ經過スル

ニ非サレバ之ヲ配與スベカラズ

夏時在院者ニ給スル飲水ハ醫員ノ指示シタル分量ノ醋
若クハ杜松酒^{ビシエーブル}ヲ混入シタル水ヲ給與スベシ

諸物ヲ割烹スル鍋鍍類ノ鑊物ヲ尤モ其ク注意スルヲ要

又々院長ハ時々自ラ庖厨ニ至リテ特別ニ其事ヲ監察スルヲ緊要トス

第七十七條 醫員ハ少ナクモ一周間二回ハ食物ノ検査ヲナサシム又々其醫員ノ検査外ニ膳食委員及ヒ月番委員トハ毎日食物配與時間ニ之カ検査ヲナシ新鮮ナル食物ヲ給與スルヤ否ヲ監察ス
諸役員ノ食物ヲ調理スル時ニ當テ之レガ爲メ特別規則ヲ設ケシム

第七十八條 院長ハ毎日其翌日ノ食物配與方及ヒ其分量トヲ記載スル帳簿ヲ膳食部ニ渡サシム
又々醫員ハ毎日ノ診察簿中ヨリ拔萃シタル疾病者ノ食量簿ヲ院長ニ渡スベシ而シテ院長ハ之ヲ検査シタル後チ

直ニ之ヲ膳食部ニ渡サシム

第七十九條 食物ノ至急給與ヲ要スヘキ理由ヲ記載スルノ書類ハ膳食部及ヒ院長ニ其旨ヲ報告シテ速ニ之ヲ給與スベシ

第八十條 院長若クハ監察員ニ於テハ鍋鏝類ヲ以テ烹煮シタル食物ノ分量ヲ精密ニ調査スルガ爲メ膳食部及ヒ烹煮方トハ院長ノ規定シタル時間内ニ非ラザレバ安リニ其事ニ着手スルヲ得ズ又々肉汁及羹汁等総テ種々ノ物品ヲ混スル食物ヲ調理スル時ハ其混合物ヲ膳食部ニ於テセンコトヲ豫防スルガ爲メ監察員ハ毎日庖厨ニ赴キテ諸食物整頓ニ至ルマテ之ヲ監察スベシ
膳食ハ食物配與方ヲ司トルヘシ

第八十一條 食堂ニ食物配與ヲナス時ニ當テハ各區ノ監察員及ヒ監察婦ノ面前ニ於テ之ヲ整頓スヘシ

第八十二條 監督委員ハ特別投票則ニ從ヒテ該院ニ緊要ナル食物品ノ投票ヲ毎年ナサシメテ之ヲ請求ス但シ其投票ハ州會議員ノ許可ヲ得ザレハ確定スルヲ得ズ

第八十三條 院長ハ膳食部ノ倉庫ニ供給者ヨリ收入シタル諸食物品ヲ檢査スルモ成ル可ク監督委員ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ
監督委員ハ院長若クハ醫員ニ於テ其諸食品ノ見本品ニ異ナリ且ツ投票則ニ違反シタルヲ發見シタル時ハ直ニ之ヲ返戻スベシ
供給者ハ其諸食品ノ其ノ用ニ堪ヘザルハ直ニ良品ト

交替ルスノ義務アリ

第八十四條 監督委員ノ許可ヲ得サレバ何如ナル臨時特別ノ購買物ヲリト雖モ院長ハ其物品ヲ購求スルノ權ナキ者トス故ニ其許可ヲ得タル後テ供給者ニ就テ院長カ希望スル物品ノ代價ヲ請求シ充分ニ之ヲ檢査シタル後テ之レヲ購求ス但シ監督委員ノ許可シタル見本ト代價トニ依テ購求スベキ物品ハ此限ニ非ス

第八十五條 若シ不得已食品購求コシテ十「フラン」ヲ超過セサル時ハ前拂ノ名稱ヲ以テ院長直ニ之ヲ購求スルモ敢テ差支ナシトス

第八十六條 院長ハ每三月期ニ於テ食物費用出納總計簿ヲ出サシム

膳食部ノ調査シタル其計筭簿ハ左ノ五箇條ヲ以テ組織ス

第一 毎日倉庫ニ收藏スル諸食品

第二 食物配與ノ數、丁年者、幼年者、老者及ヒ疾病者ニ毎月配與シタル食品ノ數

第三 醫員ノ命ニ從ヒテ疾病者ニ毎月配與シタル食品ノ數

第四 麵包製造人ノ手数料

第五 一ヶ月間諸種ノ臨時用ヲ勤務シタルガ爲メ費シタル金額ニ係ル概算簿

第十一章 衣類

第八十七條 在院者州會議員ノ許可シタル衣服ニ非スシ

テ監督委員ノ命令ニ依リテ組織シタル冬夏二季ノ衣服ヲ受取ラシム

第八十八條 在院者ノ毎日使用スル衣服類及ヒ寢具ヲ保存セシカ爲メ設置シタル倉庫ハ院長ノ特別監察及ヒ守藏吏ト監督トニ附セシム

第八十九條 在院者ニ使用スル物品ハ成ル可ク院内ニ於テ製出シタルモノヲ用ユベシ

衣服庫ニハ各種ノ摸形及ヒ方法ヲ設ク故ニ守藏吏ニ供給シタルモノハ其雛形方法ニ從ヒテ之ヲ検査シ受領ヲナスベシ

第九十條 衣服庫ハ院長ノ規定シタル時間内ニ毎日開放シ各區ノ監察員ニ配與スル衣類及ヒ麻布類ヲ支出スル

ノ便トナサシム

配與方ノ爲メ規定シタル方法ニ從ヒテ施行ストモ其受領者及渡方トニ於テ互ニ調印セシムヘシ

第九十一條 少ナクモ一ヶ月四回ハ衣服類ヲ検査シテ新ニ製造スベキヤ否ヲ明瞭ナラシム然レモ其検査時限ハ監督委員之ヲ規定ス是故ニ其検査ハ院長及ヒ監督委員ノ面前ニ於テ之ヲ施行ス右検査ヲ終タル後チ漸々ニ倉庫、麻布置場、寢室及ヒ其他種々ノ物品ノ在ル所チ巡察シテ其調査簿ヲ認メシム則チ左ノ如シ

- 一 新製シテ給與スル物品ノ數及ヒ廢物ノ數
- 二 倉庫ニ藏セル物品ノ修覆ヲ要スト判定スル各種物品ノ數

右調査簿ハ監督委員ニ渡サシムルト雖モ時トシテ前第一項ニ記載スル新調物品ノ配與ト齊シク第二項ニ記載スル物品ノ調査簿モ亦タ院長ニ渡サシムルヲアリ

物品配與ハ其月日ヲ名簿中ニ記入シテ後日其衣服ヲ破損シタル者ヲ哥スルノ用ニ供ヘシム

第九十二條 衣服類ハ時季ニ依テ更替シ或ハ洗濯セシム就中夏服ハ十月ニ冬服ハ三月ニ更ムルモノトス

各在院者ハ入院ノ時ニ於テ適當ノ衣服類ヲ受取ラシム

親衣 手拭 蔽膝 夜帽等ハ総テ土曜日毎ニ更メ又タ疾病者ノ全治シテ病室ヲ出タル者ノ衣服ハ其組合區ニ編入スル時之ヲ更メシム

疥癬若クハ他ノ傳染病ニ罹リタル者ノ衣服類ハ醫員ノ

請求ニ依リテ之ヲ薰蒸スルコトアリ若クハ燒棄スルコトアルベシ

第十二章 寢具

第九十三條 各在院者ニハ一人毎トニ寢具ヲ與フベシ又
タ寢床ハ成ル可ク瓦ニ相隔離スルヲ要ス
寢室ハ夜中燈火ヲ點シ且ツ監察務ヲ怠タルヘカラス又
タ夜間ノ監察法ハ院長ノ意見ニ依リテ監督委員之ヲ決
定ス
壯健者、疾病者、及ヒ幼者ニ供スル寢具類ハ總テ院長ノ建
言ニ依リ監督委員之ヲ規定スト雖モ州會議員ノ許可ヲ
得ルモノハ此限ニ非ス
寢具類ノ一部ハ衣服庫守藏吏ノ支配ニ附屬スベシ

第九十四條 藁蒲團ノ藁ハ少ナクモ一ケ年間二回ハ之ヲ
更メシムトモ若監督委員ニ於テ數々之レヲ更ムルヲ以
テ要用ナリト判定スル時ハ數々之ヲ更ムルモ敢テ妨ケ
ナシトス
寢床ノ敷布ハ毎月之ヲ更メ又タ各在院者ハ適當ノ敷布
一對ヲ受領スルコトヲ得ヘシ
藁蒲團ニ齊シキ寢具類ハ少ナクモ毎年一回之ヲ洗濯セ
シムベシ

第九十五條 病室ニハ鉄製ノ寢床ヲ備フ
疾病者ノ寢床ニ附屬スル物品ハ机、据付机、食卓、匕匙、皿、飲
水壺、洗手器、便器及ヒ此他之ニ附屬スル物品ハ醫員ノ緊
要ナリトシテ命スル者ヲ供スヘシ又タ病室ノ一室ニハ

車輪付ノ沐浴器ヲ備フ

第九十六條 疾病者ノ寢床ニ番号ヲ附シ且ツ之ニ黒塗板ヲ附シテ病者ノ姓名ヲ記載シ其他醫員ノ教示スル事項ヲ悉ク之ニ記載スルガ爲メニ備フベシ

疾病者ノ寢床ニ附属スル衣服類ハ總テ醫員ノ命令アル毎ニ之ヲ洗濯シ且ツ新調セシムベシ
マテラ 枕子ハ各年鞭打拂塵ス

疾病者若シ死亡シタル時ハ之レニ用ヒタル衣服寢具類ハ皆ヲ新調スベシ

第九十七條 感染症ノ病候アル時若クハ永久病ニ罹リテ之レガ爲メ寢具類ヲ汚損スルコトアル時ハ其諸物品ヲ蒸蒸シ或ハ燒棄スベシ

疾病者ニ用ヒタル衣服類ハ他ノ物品ト混同スヘカラサ
ルカ爲メ之レニ(G)ノ字号ヲ付スベシ

第九十八條 病室ノ寢具或ハ工業ヲ嫌避シタル者不品行ノ者及ヒ強剛不從順ノ者等ヲ入レシムル懲罰室ノ寢具類ハ形況ニ從ヒテ監察委員之レヲ規定スベシ (未完)

○白國貧院規則續

第十三章 醫員職務

第九十九條 該院ニ男女ノ兩病室ヲ設置ス又ク互ニ相交
通スルヲ得サル病者ニハ特別房ヲ設ケ或ハ全治室或ハ
睡眠女(睡眠病)及ビ幼稚者ノ爲メニ各々別室ヲ設ケシム
ベシ

右ニ記スル諸種ノ病者ヲ置クベキ房室ノ不充分ナル時
ハ醫員ハ院長及ヒ監督委員協議シテ其房室ヲ新設スル
ニ至ルマテハ成ル可ク室ノ中央ニ集合セシムベシ

第一百條 該院健康上ノ勤務ハ總テ在院者ハ諸役員其親屬
ハ皆内外科醫員ニ托任スルモノトシ他ハ決シテ委托ス
可ラザル者トス若シ院内ニ藥劑所ノ設ケアル時ハ内外

科醫員ハ藥劑調合ヲ司レル副醫員ノ補佐ヲ受ルヲ得
ベシ

第一百一條 若シ多數ノ疾病者アル時或ハ病勢過激ニシテ
多數ノ副醫員ヲ要スル時ハ病院生徒中ヨリ副醫員ヲ任
命シ内外科醫員ニ於テ其職務ト義務トヲ規定スベシ

第一百二條 其副醫員ハ成ル可ク院内若クハ該院近隣ニ居
住スルヲ要ス

第一百三條 醫員長ハ諸病者ニ係ル總務ヲ規定シ或ハ室内
健康上ノ妨害トナルヲ注意シ或ハ病室ヲ變替セシム
ルヲ或ハ病床ヲ改替セシムルヲ等ヲ規定スベシ
醫員ハ貧者ノ受取事務ヲ兼勤スヘシ
醫員長ハ必ス各病室ヲ一日二回宛回診スベシ即チ夏時

ハ朝七時一回又冬時ハ朝八時一回トス此他ノ時間ハ醫
員長ニ於テ適當ノ時間ニ規定スルモノトス但シ回診ノ
時ニ當レバ各房ニ其旨ヲ告知スベシ然レモ若シ病者ノ
數多カラサル時及ヒ病勢過激ナラサル時ハ監督委員ノ
許可ヲ得テ朝一回ノ回診ヲ以テ足レリトスルヲアルベ
シ又タ急病者アル時ハ日夜ニ關セス定時外ニ來診スヘ
キモノトス

第一百四條 醫員回診ノ時ニ當レハ副醫員及看病人長ノ案
内ヲ得ヘシ故ニ醫員ハ其副醫員若クハ看病人長中ノ一
名ニ書記ヲ委任シテ回診簿ニ其病狀ヲ記載セシムヘシ
又タ回診簿ハ九箇條ニ區別ス

- 一 寢床ノ番号

- 二 各病者ノ姓名及ヒ年齢
 - 三 病性
 - 四 入室ノ月日
 - 五 在室ノ日數
 - 六 病者取扱ノ畧法
 - 七 病中不慮ニ發シタル病性
 - 八 死亡若クハ退室 全治室ニ送附スルヲ若クハ各組合ニ送附スルヲ
 - 九 病者が注意シタルノ病狀
- 第一百五條 内外科醫員ハ病者ニ適當ノ食物及ヒ醫藥用法ヲ命令ス又タ毎日ノ診察後ニ至テ回診簿ニ調印ス又タ食物及ヒ醫藥計算ノ基礎トナル右回診簿ニハ監督委員

モ亦タ調印スヘシ
如何ノ食物ヲリト雖ヒ診察前病者ニ食物ヲ配與スヘカラス

假令ヒ如何ナル外科施術ヲ行フ時ト雖ヒ總テ内外科醫員長立合ノ上ニアラサレバ之ヲ行フヲ得ス

第一百六條 藥劑方若クハ看病人長ヲ命セラレタル副醫員ハ各診察後ニ至テ回診簿ノ部類ヲ區別スヘシ例ヘハ各病室ニ係ルモノ或ハ各室ノ食量ニ關スルモノ或ハ藥石及ヒ外科施術等ノ類是ナリ

診察簿ノ部類ヲ區別スルハ成ル可ク精密ニ調査シテ記載スルヲ要ス何トナレハ該簿ハ賄計算簿ニ大關係ヲ有スルモノナレバナリ

醫藥ノ処方書ハ藥劑所ニ又タ糊帶及ヒ外科ノ書付ハ副
 醫員ニ渡サシム副醫員ハ直ニ之ヲ醫員長ニ出スベシ
 醫藥ノ配與ハ処方書ヲ渡シタル後チ二時間ヲ經過シタ
 ル後之ヲ付與スヘシ但シ至急ヲ要スル場合ハ此限ニア
 ラス
 藥劑員ハ藥劑簿ニ其服用方寢床ノ番号及ヒ姓名等ヲ記
 載スヘシ

第一百七條 内外科醫員ハ左ノ如キ事故ヲ監察ス即チ調劑
 ナ任シタル副醫員ノ勤怠、看護長ガ病者取扱ノ勤怠、病室
 ノ衛生ニ適不適ノ一及ヒ清潔ニ關スル一其他外科醫員
 ハ院長ガ病者ノ事務ニ關スル一アル時ハ之ヲ補佐スル
 ノ類及ヒ看護者ヲ監察シテ犯則者ヲ監察スル等是ナリ

第一百八條 副醫員若クハ看護長ハ食物配與ノ時ニ出席シ
 テ病者ノ姓名及ヒ番号ヲ點呼シテ食物ヲ給與スヘシ
 單一ノ飲物ハ看護者ヨリ直ニ渡サシムヘシ而シテ朝時
 ニ服用スル醫藥ハ副醫員ヨリ直ニ給與ス但シ其副醫員
 ハ日中病室事務ヲ司トル看護長ノ案内ヲ得ヘシ
 副醫員ハ晝夜ヲ論セス病者ノ請求アル毎ニ病者ノ側ニ
 至ツテ其診斷ヲ爲スヘシ内外科醫員ノ不在ナル時ハ其
 代診ヲ命セラルヘシ
 病者ノ入室スルヤ一時仮病室ニ置カシメ内外科醫員第
 一回ノ診察時ニ於テ之ヲ規定スベシ
 或ル場合ニ在テハ副醫員ノ意見ニ依テ食物ヲ變換シテ
 給與スル一アルベシ然レモ此ノ場合ニ在テハ其旨ヲ細

密ニ簿冊中ニ記入スヘシ
副醫員ハ醫員長若クハ院長ノ命令ヲ受ケスシテ入室ス
ルモノアルヲ監察シ及ヒ面會者ヨリ病者ニ食物類ヲ贈
與スルヲ監察ス

第百九條 内外科醫員ハ全治室ニ入レシムルノ病者ト其
時間トヲ規定スベシ

病者ノ退室ヲ規定シテ其月日ヲ診察簿ニ示スベシ
内外科醫員ハ規則ニ從ヒテ諸病者ノ幸福ヲ保全スベシ
第百十條 内外科醫員ハ毎日諸藥石ヲ検査ス

又タ毎日曜日神拜後若クハ監督委員ノ規定シタル時間
ニ於テ諸在監者ヲ回診シテ疥癬若クハ他傳染病者ノ有
無ヲ検査ス

少クナクモ一周一回ハ院内ノ各室ヲ巡察シテ薰蒸スベ
キモノアレハ命シテ之ヲ薰蒸セシメ或ハ清潔ニスルヲ
命ス又衛生上ノ妨害トナル者ノ原因アルキハ其旨ヲ院
長及ヒ監督委員ニ告知スベシ

第百十一條 看護婦ハ特別役員ヲ以テ任命スルヲアリ或
ハ在院者ヲ以テ之レニ任命スルヲアルヘシ故ニ看護婦
ハ内外科醫員ノ意見ヲ以テ院長之ヲ任命ス又タ非常ノ
場合ニ非ラザレバ病者十名ニ看病人一名ヲ付スベカラ
ズ

看護婦等ハ院長醫員副醫員若クハ看護婦長ヨリ與ヘタ
ル敎令及ヒ命令ヲ遵守スヘシ

第百十二條 看護婦長ハ繙帶木綿及ヒ木綿類出納ヲ記載

スヘキ簿冊ヲ所持スル者ナレハ常時其保存方ヲ委任ス
ヘシ又タ之ヲ洗濯シタル後副醫員ニ出スヘシ
看病婦ハ其木綿類及ヒ外科器械ヲ看護婦長ニ渡スノ任
アリ若シ夜中看護スルコトアルノ場合ニ在テハ看護婦中
互ニ順次ヲ以テ其勤務ヲ怠ラサルベシ
各室ニ看護婦ヲ配置スト雖モ事務上困難ノ事情アルモ
及ヒ多忙ナル時ハ互ニ助力スルヲ要ス

第百十三條 各病室ハ内庭廊下及ヒ階梯ト齊シク毎日醫
員ノ規定シタル時間内ニ清潔ニ掃除スベシ又タ病室ハ
常時空氣ノ流通ヲ善ナラシメ清淨ナル大氣ヲ流入セシ
ムベシ又タ飲食器ヲ洗滌スルハ沸湯ヲ以テ數々之ヲ洗
滌スルヲ怠タルベカラズ

第百十四條 病者若シ死亡シタル時ハ直ニ看護婦長ヨリ
其旨ヲ醫員及ヒ副醫員ニ告知スベシ又タ醫員ハ其死体
ヲ檢査シタル後テ其旨ヲ醫員ヨリ院長ニ告知スベシ

第百十五條 流行病發生スルコトアル時ハ其原因及ヒ藥法
ヲ記載セル報告書ヲ醫員ヨリ監督委員ニ出サシム而シテ
監督委員ハ二十四時間後ニ其報告書ヲ州會議員ニ回達
シテ州ノ醫師等ガ注意ヲナスノ便トナサシム
醫員ハ三ヶ月毎ニ該院ニ於テ取扱ヒタル病者ノ數及ヒ
病症ノ原因トヲ報告スヘシ
醫藥ノ給與法、藥劑計筭及ヒ病者食物規則ハ特別則ヲ以
テ之ヲ規定ス
看護婦長及ヒ看護ノ事務職制ニ係カハル方法ハ婦人病

室ノ看護婦ニ適用ス

第十四章 衛生、健康、煖爐、燈火

第一百十六條 院長ハ務メテ院内ノ衛生ト健康トヲ監督スベシ該規則書ニ記載スル取扱方ノ外院長ノ注意ニ依テ一ヶ月二回食堂、寢室、工場、倉庫及ヒ其他ノ各所ヲ清潔ニ掃除セシム又タ薰蒸スベキモノアレバ之ヲ行ナハシム而ノ事務ハ総テ醫員ト協議スヘシ

院内ハ少ナクモ一ヶ年一回大掃除ヲスベシ又タ數々大掃除ヲ要スル時ハ數々之ヲナスモ敢テ差支ナシトス溜水ハ成ル可ク速ニ流通セシムルヲ要ス

家蓄類ノ肥料及ヒ植物ノ塵芥ハ成ル可ク清潔ニ掃除シ又タ木綿類ハ數々大氣ニ晒スベシ

百名ノ在院者ニ付少ナクモ一箇ノ浴室ヲ設置シ毎月一回宛沐浴セシムベシ

病室ノ燈火ハ醫員ノ規定シタル時間内ハ點火スルヲ得ベシ

院内ノ燈火ハ院長ノ建言ニ依リテ監督委員ノ規定シタル時間内ニ點火スルヲ得ベシ

第一百十七條 三ヶ月毎ニ院長ハ監督委員ノ許可ヲ得テ煖爐ニ用ユル薪炭ノ量ヲ規定スベシ又タ寢臺、工場、内庭若クハ他ノ場所ノ點燈ノ材料トナル石炭油モ亦タ右ト同一ノ方法ニ依ルベシ

冬季前ニ當レハ院長ハ煖爐其管及ヒ煙筒ヲ据置ク所ノ位置ヲ検査シテ六ヶ月間之ヲ据ヘ置キ且ツ火災豫防ニ